

令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査

ふれあいのまちづくり協議会

調査結果報告書

令和5年3月

神戸市

【目次】

(1) 調査概要	1
① 調査の目的.....	1
② 調査対象.....	1
③ 調査方法等.....	1
④ 調査の対象と回収状況	1
⑤ 調査結果の表示方法	2
(2) 団体の活動	3
① 現在実施している活動と再開したい活動（問2）	3
② 今後特に力を入れたい活動（問2）	4
③ 活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模（問4）	5
④ 主な担い手の年齢の特徴（問5）	5
(3) 利用施設と集まりの開催状況	6
① 地域福祉センター以外の施設での活動の有無（問3）	6
② 定期的に利用している施設（問3）	6
③ 集まりの状況（主な利用対象者と開催頻度）（問3）	7
(4) デジタル技術の活用	8
① デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問7）	8
② デジタル技術活用のために市に求める支援（問8）	9
③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問9）	9
(5) 他団体との連携	10
① 既に連携している団体（問11）	10
② 他団体と連携した取組事例（問12）	11
③ 他団体と連携して実現したいこと（アイデア）（問13）	12
(6) 活動を進めていくための課題	13
① コロナ禍での活動で苦労していること（問6）	13
② 活動を進めていくための課題（人材面）（問10①）	14
③ 活動を進めていくための課題（運営面）（問10②）	14
④ 活動への住民の参加状況の課題（問10③）	15
⑤ 地域住民への情報伝達における課題（問10④）	15
(7) 団体が活動している地域の状況等	16
① 住民の居住年数の特徴（問14①）	16
② 住民同士の交流の状況（問14②）	16
③ 住民による地域活動の活発さの状況（問15）	17
④ 活発になっている理由（問16）	18
⑤ 以前に比べて活発でなくなった理由（問17）	19
⑥ 活動している地域の課題（問18）	20
⑦ 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問19）	21

(8) 今後の活動に向けて	22
① 地域の力の結集状況（問20）	22
② 活動の現状についての満足度（問21）	22
③ 団体が担う役割の今後についての考え（問22）	23
④ 団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問23）	23
⑤ 市に相談したいことや支援を希望すること（問25）	24
⑥ 行政に期待する取り組み（問26）	25
(9) 代表の活動状況	26
① 代表（回答者）の状況（問35）	26
② 代表の選出方法（問28）	28
③ 代表の任期や定年の定め（問29）	28
④ 代表になってからの年数（問30）	29
⑤ 地域活動のための月間活動日数（問33）	29
⑥ 地域活動の担い手として参加したきっかけ（問31）	30
⑦ 地域活動に参加してよかったこと（問32）	30
⑧ 委員長として特に感じる負担（問34）	31
(10) 自由意見.....	32
① 運営での工夫（問24）、ふれまち活動について感じていること（問27）	32
② 地域福祉センターについて感じていること（問27）	34
③ コロナ禍において新たに取り組んだこと（問24）	34
④ その他	35

(資料) 調査票

(1) 調査概要

① 調査の目的

神戸市では、おおむね3年ごとに、市内で活動されている地域組織のみなさまの活動実態及び課題などを把握するためアンケート調査を実施している。

前回の調査（令和元年度）以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、対面での活動が制限されたり、感染防止対策が必要となるなど、地域活動の実施にあたっては様々な工夫をされるとともに、様々な地域課題への対応や、デジタル技術の活用等、新たな取組にもチャレンジされていると考えられる。そこで、地域組織の活動に携わっている市民の取り組みや感じていることを把握し、今後の施策に活用する。

② 調査対象

下記の団体を対象とする。

	概要	備考
ふれあいのまちづくり協議会	高齢者や障がい者、子どもたちなどが、あたたかいふれあいの中で互いに支え合って暮らしていくことができる地域社会づくりをめざしている。自治会、民生委員・児童委員協議会、婦人会、老人クラブ、子ども会、ボランティアなどの各種団体の代表者などにより、おおむね小学校区単位で構成されており、地域の実情に応じた福祉活動や交流活動などを実践し、地域福祉の向上をめざしている。	全ての団体を調査対象とした。

③ 調査方法等

調査方法	調査対象団体の代表者に調査票を郵送配付し、郵送で回収した。
調査期間	令和4年10月11日（火）～11月11日（金）

④ 調査の対象と回収状況

	発送数	未着数	有効発送数	有効回収数	回収率
全市	193	0	193	142	73.6%
東灘区	16	0	16	15	93.8%
灘区	15	0	15	8	53.3%
中央区	15	0	15	10	66.7%
兵庫区	16	0	16	13	81.3%
北区	35	0	35	26	74.3%
長田区	21	0	21	12	57.1%
須磨区	21	0	21	16	76.2%
垂水区	25	0	25	18	72.0%
西区	29	0	29	19	65.5%
不明				5	

⑤ 調査結果の表示方法

- ・比率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までの百分率（%）で表しています。このため、合計が100%にならない場合もあります。
- ・各設問のサンプルサイズは、“n=●”として記載しています。
- ・〔複数回答〕とある設問は、2つ以上の選択肢を回答することが可能な設問です。このため、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。

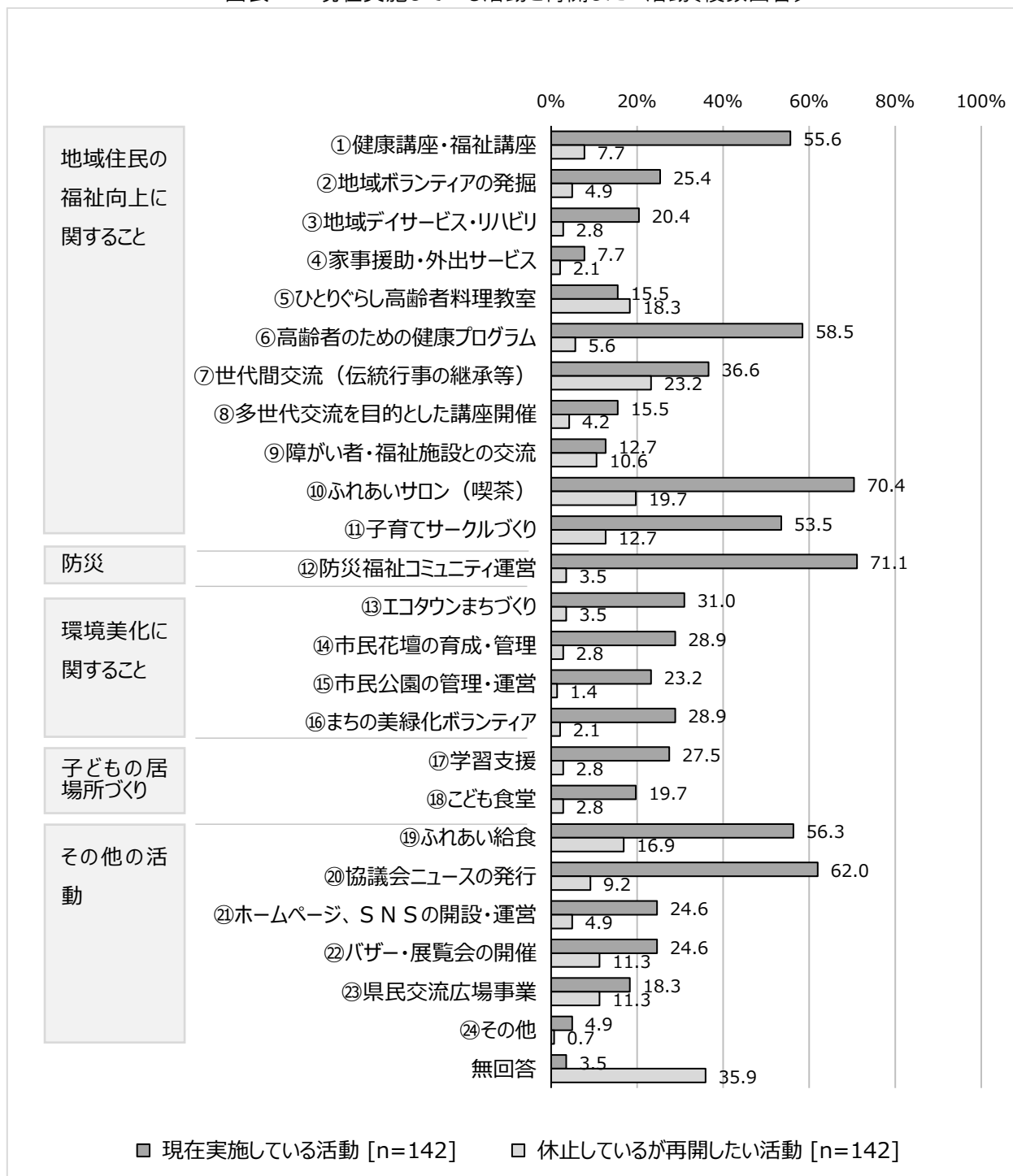
(2) 団体の活動

①現在実施している活動と再開したい活動（問2）

現在実施している活動は、「⑫防災福祉コミュニティ運営」が71.1%と最も多く、次いで「⑩ふれあいサロン（喫茶）」が70.4%、「⑳協議会ニュースの発行」が62.0%などとなっている。

休止しているが再開したい活動は、「⑦世代間交流（伝統行事の継承等）」が23.2%と最も多く、次いで「⑩ふれあいサロン（喫茶）」が19.7%、「⑤ひとりぐらし高齢者料理教室」が18.3%などとなっている。

図表 1 現在実施している活動と再開したい活動〔複数回答〕



②今後特に力を入れたい活動（問2）

今後特に力を入れたい活動は、「②地域ボランティアの発掘」が36.6%と最も多く、次いで「⑧多世代交流を目的とした講座開催」が19.0%、「㉑ホームページ、SNSの開設・運営」が18.3%などとなっている。

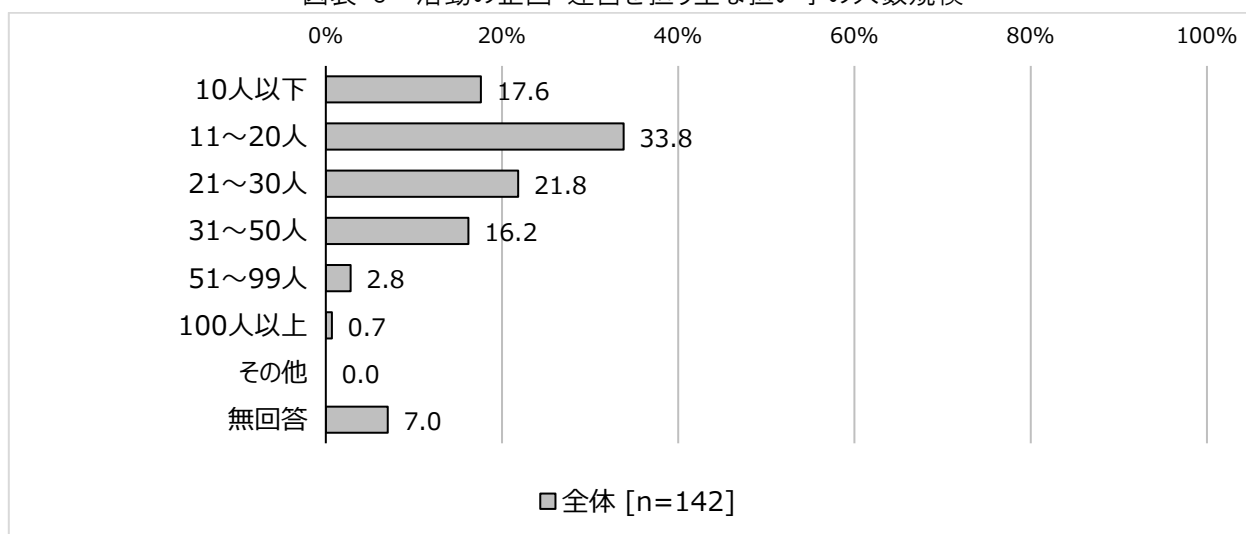
図表 2 今後特に力を入れたい活動〔複数回答〕



③活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模（問4）

活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模は、「11～20人」が33.8%と最も多く、次いで「21～30人」が21.8%、「10人以下」が17.6%などとなっている。

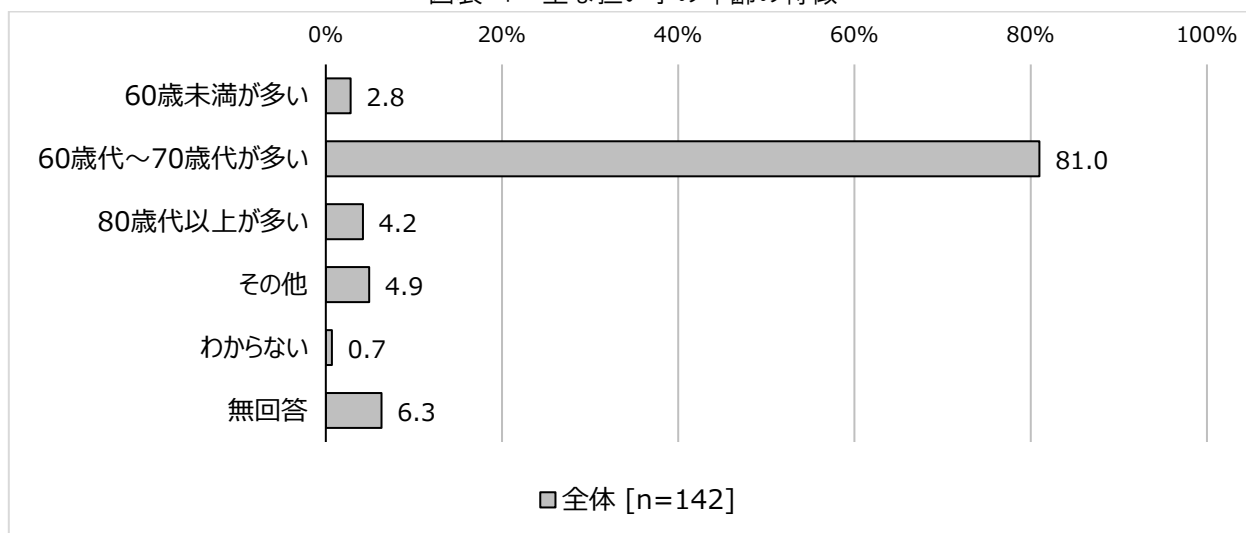
図表 3 活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模



④ 主な担い手の年齢の特徴（問5）

主な担い手の年齢の特徴は、「60歳代～70歳代が多い」が81.0%と最も多くなっている。

図表 4 主な担い手の年齢の特徴

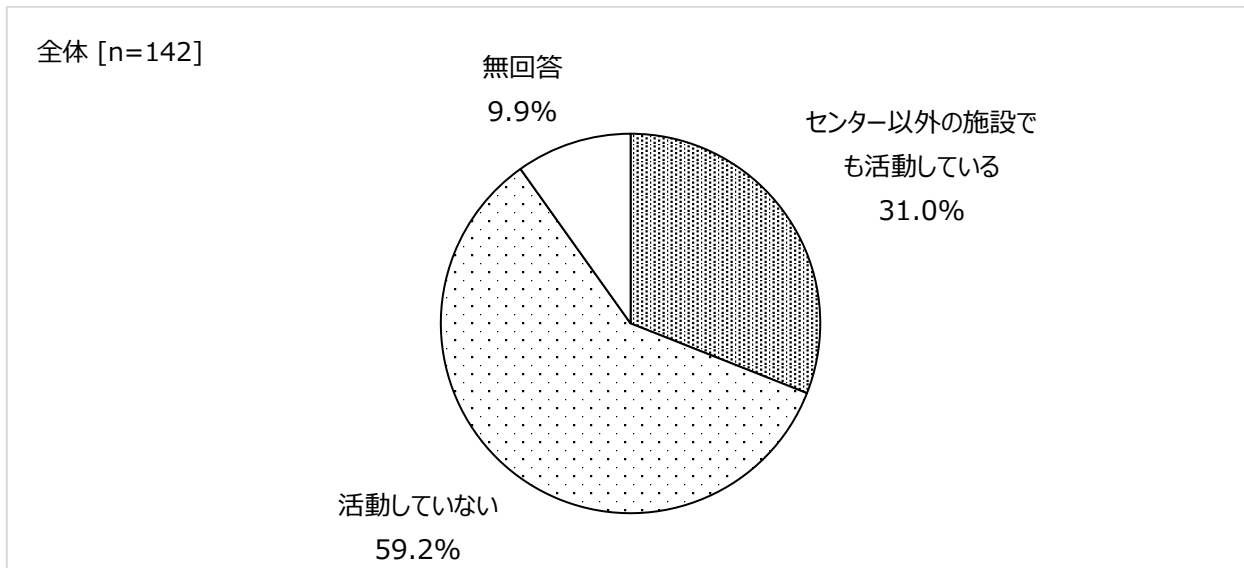


(3) 利用施設と集まりの開催状況

①地域福祉センター以外の施設での活動の有無（問3）

地域福祉センター以外の施設での活動の有無は、「活動していない」が59.2%、「センター以外の施設でも活動している」が31.0%となっている。

図表 5 地域福祉センター以外の施設での活動の有無

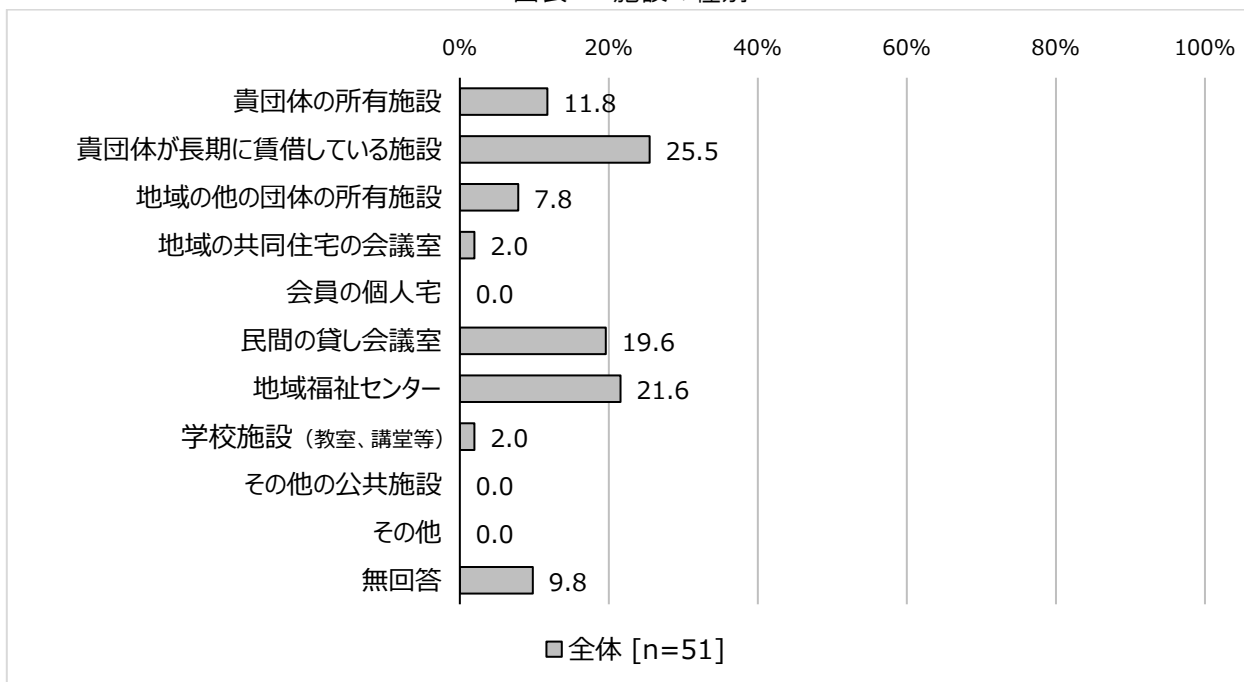


②定期的に利用している施設（問3）

ふれあいのまちづくり協議会が定期的に利用している施設として51施設の回答があった。

施設の種別は、「団体が長期に賃借している施設」が25.5%と最も多く、次いで「地域福祉センター」が21.6%、「民間の貸し会議室」が19.6%などとなっている。

図表 6 施設の種別



③ 集まりの状況（主な利用対象者と開催頻度）（問3）

定期的に開催している集まりとして105件の回答があった。

主な利用対象者は、「どなたでも」が41件と最も多く、月1回の開催の集まりが多くなっている。次いで、「高齢者」を対象とする集まりが29件で、月1回の開催の集まりが多くなっている。

図表 7 集まりの状況（主な利用対象者と開催頻度）

主な利用対象	合計	開催頻度（月当たりの開催日数）						
		月1回未満	月1回	月2回	月3回	月4回	月5回以上	無回答
合計 [n=105]	105	4	57	9	7	7	7	14
	100.0	3.8	54.3	8.6	6.7	6.7	6.7	13.3
どなたでも [n=41]	41	2	17	5	5	3	3	6
	100.0	4.9	41.5	12.2	12.2	7.3	7.3	14.6
子ども [n=14]	14	0	6	0	0	4	1	3
	100.0	0.0	42.9	0.0	0.0	28.6	7.1	21.4
親子 [n=17]	17	0	14	1	0	0	2	0
	100.0	0.0	82.4	5.9	0.0	0.0	11.8	0.0
高齢者 [n=29]	29	2	20	1	2	0	1	3
	100.0	6.9	69.0	3.4	6.9	0.0	3.4	10.3
その他 [n=1]	1	0	0	1	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答[n=3]	3	0	0	1	0	0	0	2
	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7

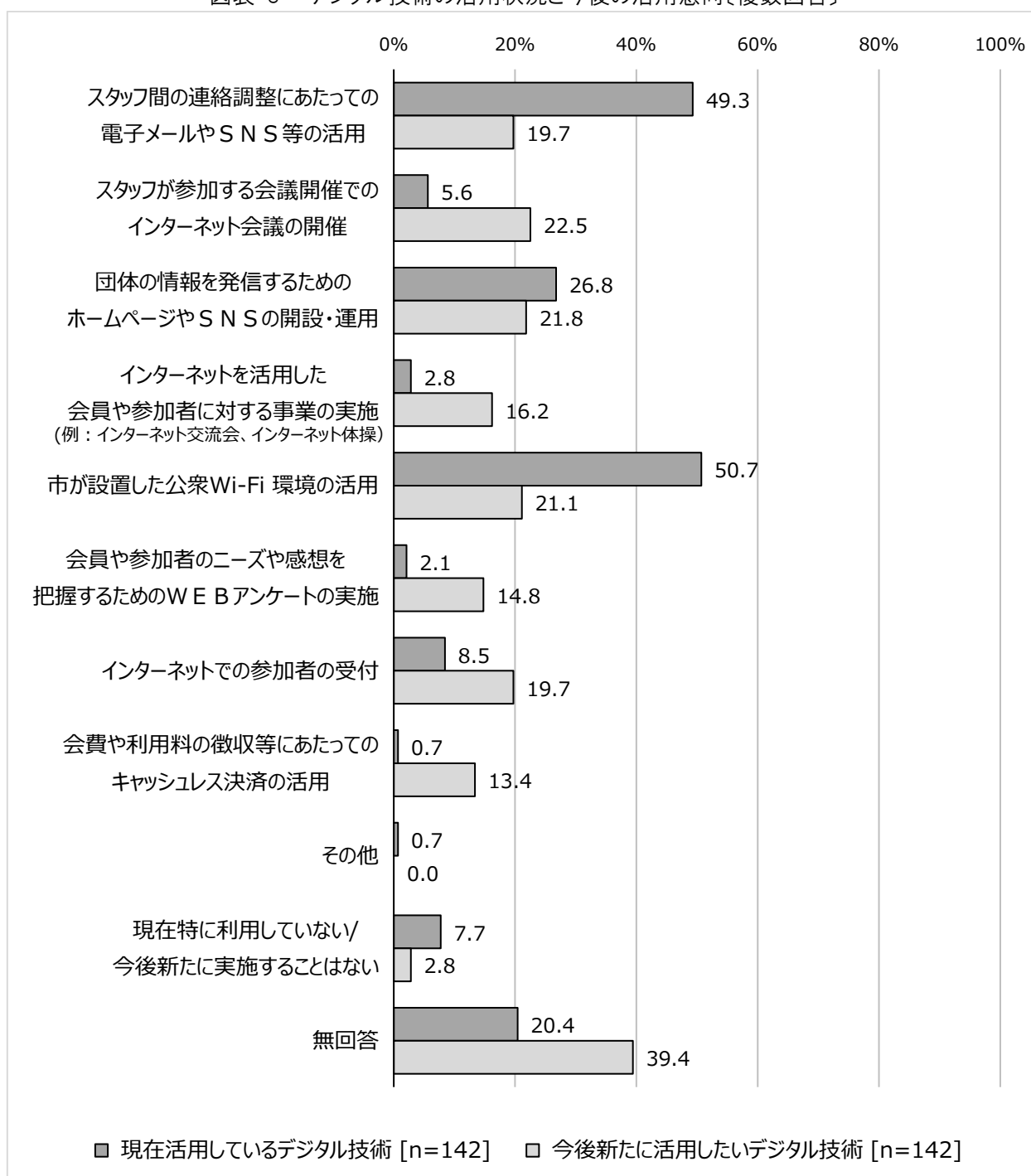
(4) デジタル技術の活用

① デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問7）

現在活用しているデジタル技術は、「市が設置した公衆Wi-Fi 環境の活用」が50.7%と最も多く、次いで「スタッフ間の連絡調整にあたっての電子メールやSNS等の活用」が49.3%、「団体の情報を発信するためのホームページやSNSの開設・運用」が26.8%などとなっている。

今後新たに活用したいデジタル技術は、「スタッフが参加する会議開催でのインターネット会議の開催」が22.5%と最も多く、次いで「団体の情報を発信するためのホームページやSNSの開設・運用」が21.8%、「市が設置した公衆Wi-Fi 環境の活用」が21.1%などとなっている。

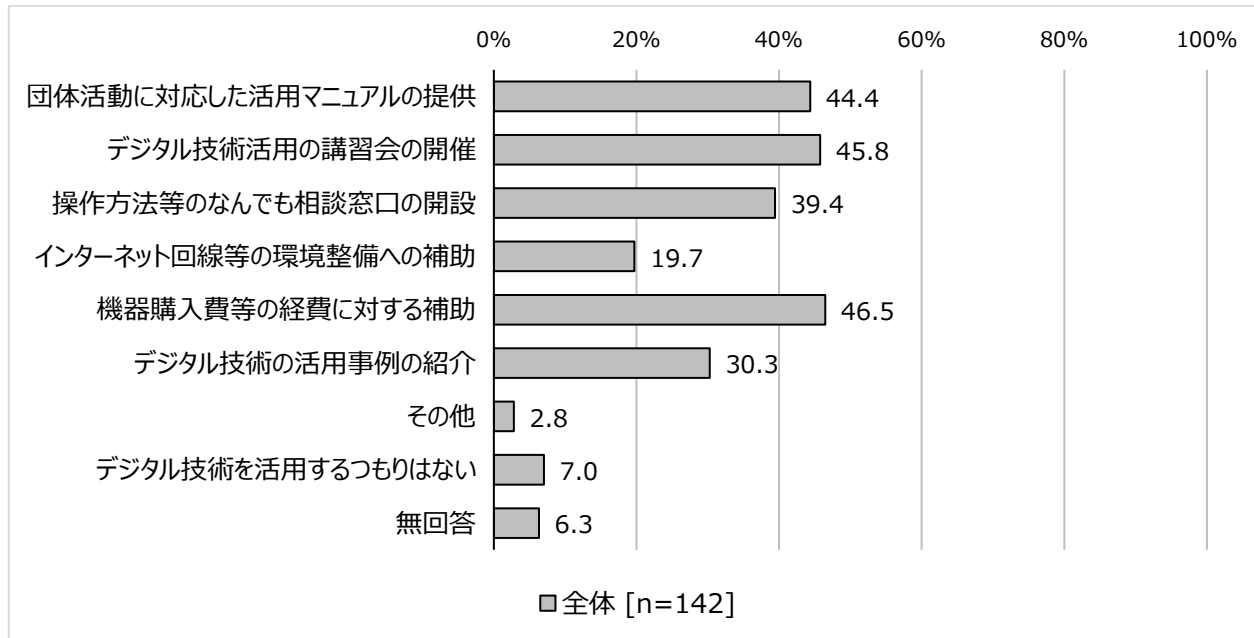
図表 8 デジタル技術の活用状況と今後の活用意向〔複数回答〕



② デジタル技術活用のために市に求める支援（問 8）

デジタル技術活用のために市に求める支援は、「機器購入費等の経費に対する補助」が46.5%と最も多く、次いで「デジタル技術活用の講習会の開催」が45.8%、「団体活動に対応した活用マニュアルの提供」が44.4%などとなっている。

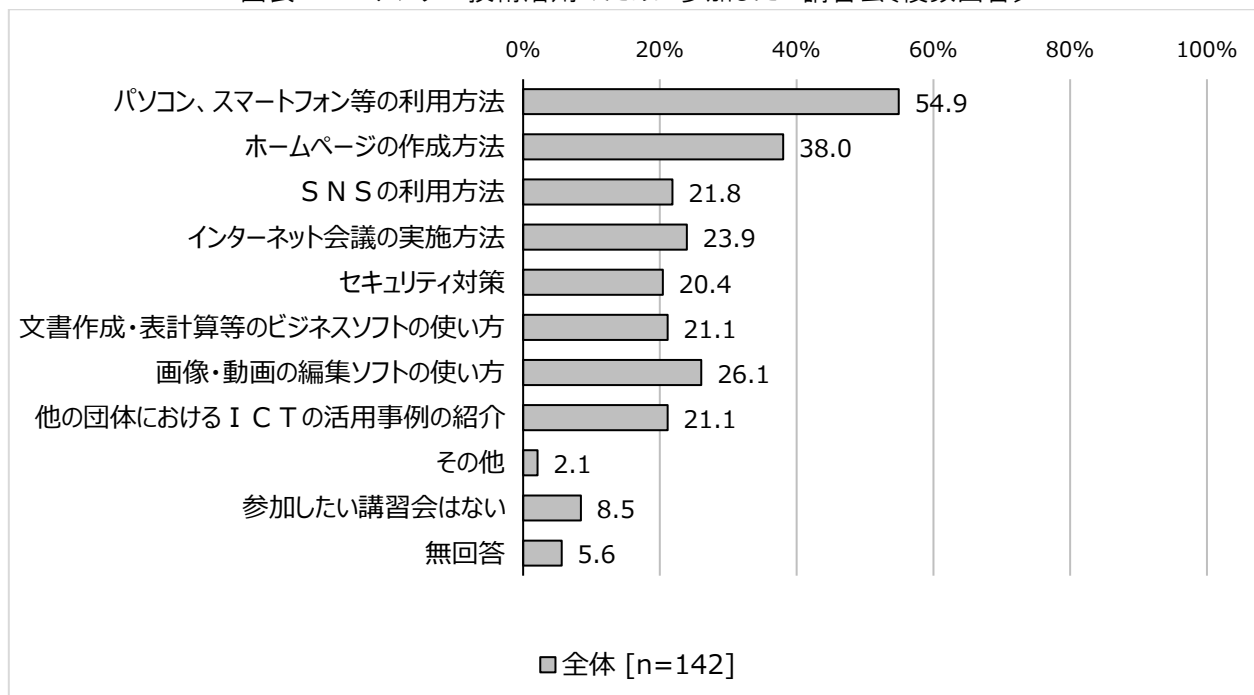
図表 9 デジタル技術活用のために市に求める支援〔複数回答〕



③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問 9）

デジタル技術活用のために参加したい講習会は、「パソコン、スマートフォン等の利用方法」が54.9%と最も多く、次いで「ホームページの作成方法」が38.0%、「画像・動画の編集ソフトの使い方」が26.1%などとなっている。

図表 10 デジタル技術活用のために参加したい講習会〔複数回答〕



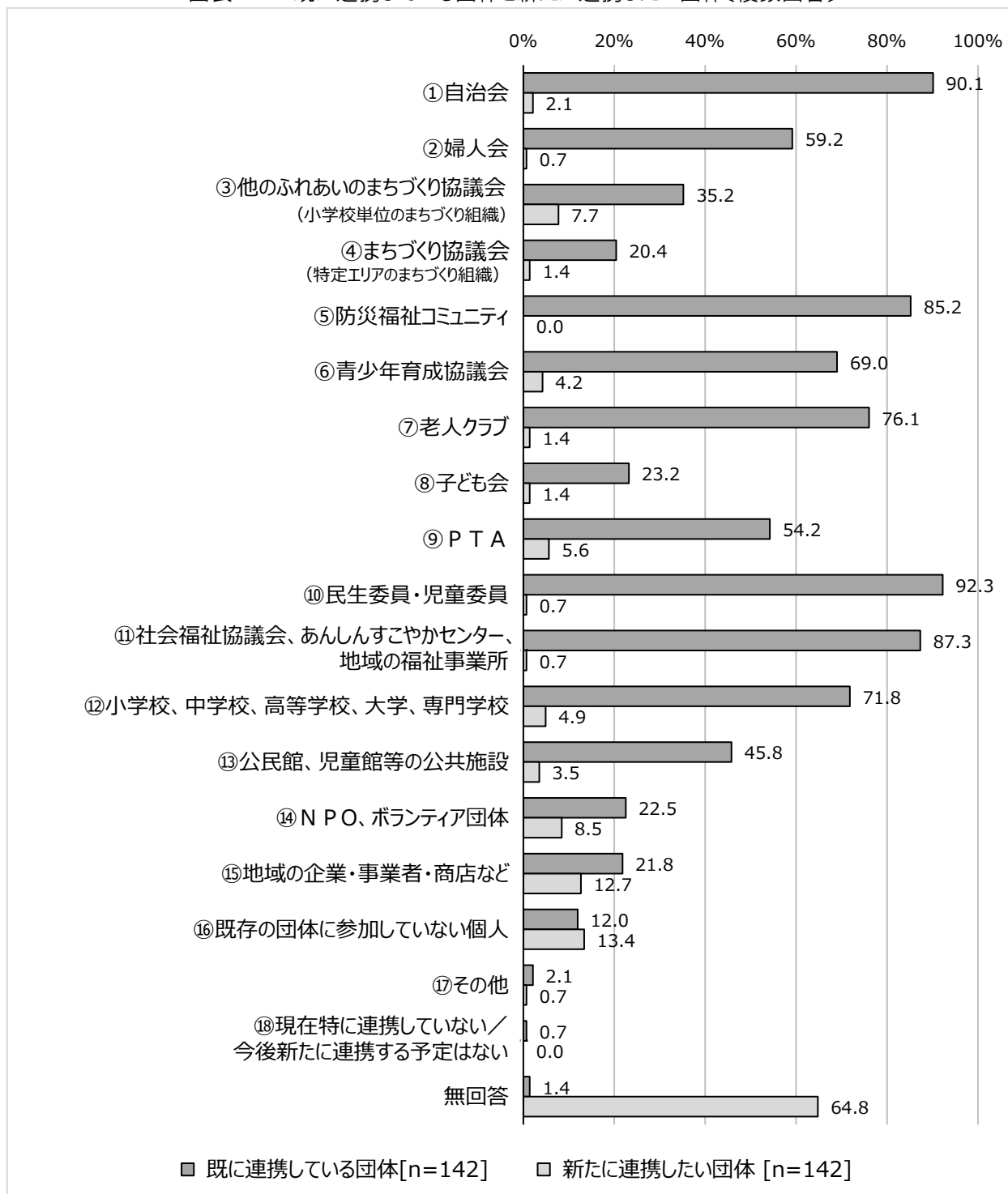
(5) 他団体との連携

①既に連携している団体（問 11）

既に連携している団体は、「⑩民生委員・児童委員」が92.3%と最も多く、次いで「④自治会」が90.1%、「⑪社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、地域の福祉事業所」が87.3%などとなっている。

新たに連携したい団体は、「⑯既存の団体に参加していない個人」が13.4%と最も多く、次いで「⑮地域の企業・事業者・商店など」が12.7%などとなっている。

図表 11 既に連携している団体と新たに連携したい団体〔複数回答〕



②他団体と連携した取組事例（問12）

他団体と連携した取組として、次のような取組事例があげられた。

図表 12 他団体と連携した取組事例

連携先	連携内容（例）
自治会	夏まつり、敬老会、運動会、文化祭、もちつき、たこあげ大会、防災訓練、清掃活動、環境問題学習会の共催、街を紹介する冊子の作成、まちづくり計画の作成（まちづくりワークショップの開催）、共同運用するホームページの開設、参加者募集での連携
婦人会	高齢者を対象としたお食事会、ふれあいまつり、夏まつり、文化祭、環境問題学習会の共催、市政懇談会
他のふれまち協	さくらまつり、ふれあいフェスタ、ふれあいグランドゴルフ大会、子ども食堂、合同防災訓練、防災訓練（避難所の共同利用）、通学路の清掃活動、運営ノウハウの勉強会
まちづくり協議会	夏まつり、まち歩き、空き地・空き家調査
防災福祉コミュニティ	防災学習、お助けガイドの作成、防災訓練、夏まつりでの会場整理やパトロール強化
青少年育成協議会	小学校での夏まつり、夏休みの手作り教室、盆踊り、花火大会、文化祭、秋まつり、ハロウィン、とんどまつり、ゲーム大会、紙芝居、お別れハイキング、子ども110番、子どもの居場所づくり
老人クラブ	健康体操、市民花壇、行事の共催
子ども会	もちつき大会、公園まつり
P T A	小学校でのもちつき大会、子どもの見守り活動、夏休み木工教室（子どもの居場所づくり）
民生・児童委員	子育てサークル、子どもの居場所づくり、ふれあい給食、見守り活動、災害時要配慮者の情報共有
社協、福祉施設等	健康教室、認知症サポーター養成講座、認知症高齢者等声かけ訓練の実施、子ども食堂、学習支援、高齢者向けの催しについて助言を受ける、もちつき、障害者との交流（防災訓練のサポート）
学校	夏休みラジオ体操、夏休み子ども広場（茶道、陸上競技、理科部）、夏休み木工教室（子どもの居場所づくり）、敬老会、防災フェスティバル、防災訓練、防災キャンプ、未就学児運動会、もちつき大会、体育館貸出し、小学校でのむかしの話の遊び、授業協力、あじさい給食会、スマホパソコン教室に学生を講師として派遣、トライやるウィーク（福祉センター活動の共同作業）
公民館、児童館等	ハロウィン、もちつき大会、子育てコミュニティ事業、子育てサークル、交流遊び、防災訓練
N P O 等	映画サロン、ワイコインサービスなどの事業
事業者・商店等	ゆかた祭り、ハロウィン、健康講座、「まちの遠足会」で商店と連携

③ 他団体と連携して実現したいこと（アイデア）（問 13）

他団体と今後連携して実現したいこと（アイデア）として次のような回答があげられた。

図表 13 他団体と連携して実現したいこと(アイデア)

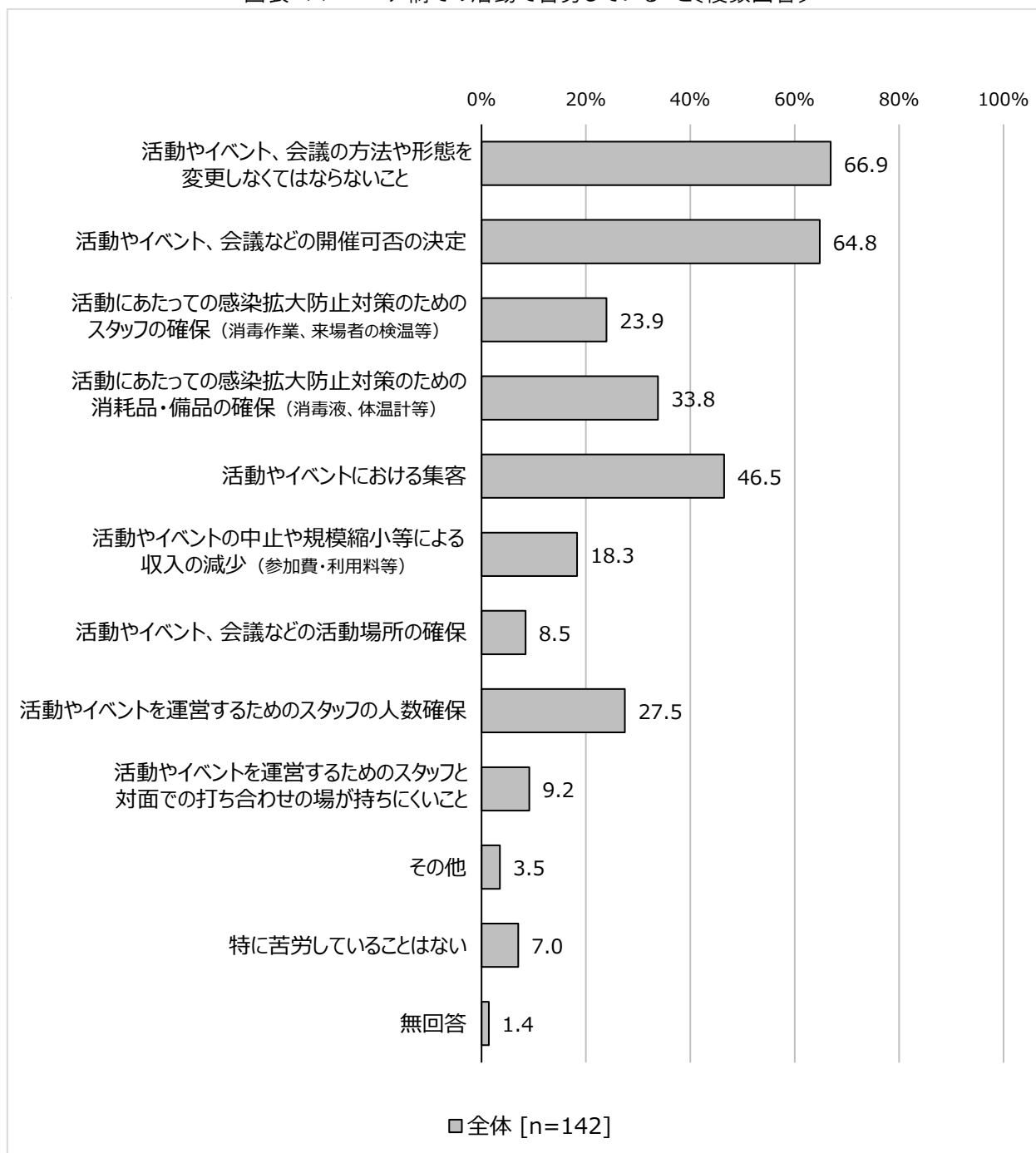
連携したい相手	連携して実現したいこと（アイデア）（例）
他のふれまち協	共同でのイベント開催、情報交換
社協、福祉施設等	子どもの居場所づくり
学校	出張授業（時事問題、社会経済授業など）、地域の再活性化、学生の研修を受入れ（認知症予防）、大学の実習に協力
公民館、児童館等	子ども達の遊び場
NPO等	事業の共同実施、ひな祭り、文化祭、七夕祭り等の助成、事務や受付等の事務の効率化、新しい企画による集客
事業者・商店等	各種健康相談や健診のセンターでの出張実施、子ども向けの工作教室、子どもの居場所づくり、防災協定
既存団体に参加していない個人	子ども食堂、学習支援、地域清掃活動、スマホ・IT教室の講師、地域イベント開催時のお手伝い、企画提案等の話し合い

(6) 活動を進めていくための課題

① コロナ禍での活動で苦労していること（問6）

コロナ禍での活動で苦労していることは、「活動やイベント、会議の方法や形態を変更しなくてはならないこと」が66.9%と最も多く、次いで「活動やイベント、会議などの開催可否の決定」が64.8%、「活動やイベントにおける集客」が46.5%などとなっている。

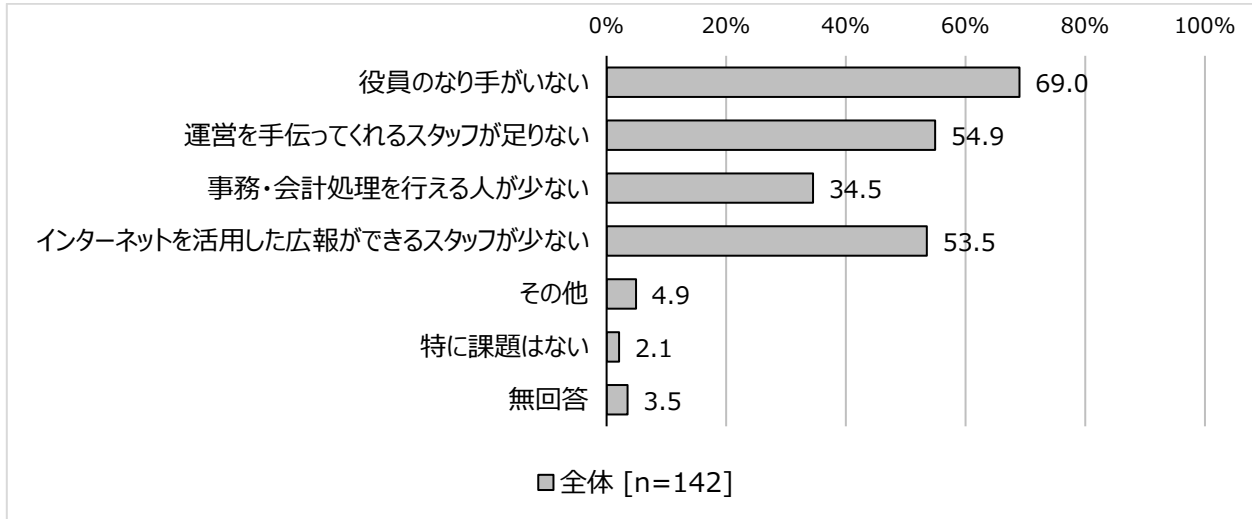
図表 14 コロナ禍での活動で苦労していること〔複数回答〕



② 活動を進めていくための課題（人材面）（問 10①）

活動を進めていくための課題（人材面）は、「役員のなり手がいない」が69.0%と最も多く、次いで運営を手伝ってくれるスタッフが足りない」が54.9%、「インターネットを活用した広報ができるスタッフが少ない」が53.5%などとなっている。

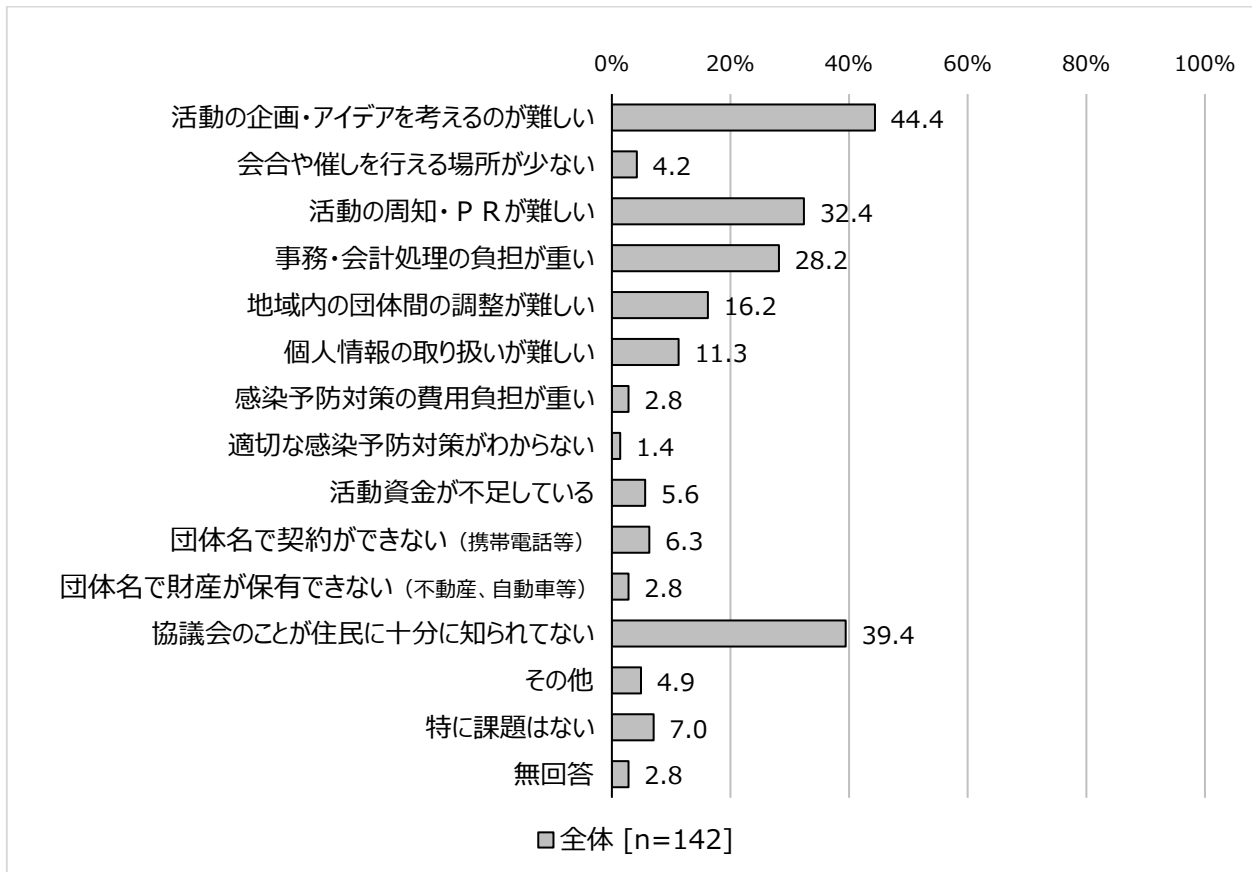
図表 15 活動を進めていくための課題（人材面）〔複数回答〕



③ 活動を進めていくための課題（運営面）（問 10②）

活動を進めていくための課題（運営面）は、「活動の企画・アイデアを考えるのが難しい」が44.4%と最も多く、次いで「協議会のことが住民に十分に知られてない」が39.4%、「活動の周知・P Rが難しい」が32.4%などとなっている。

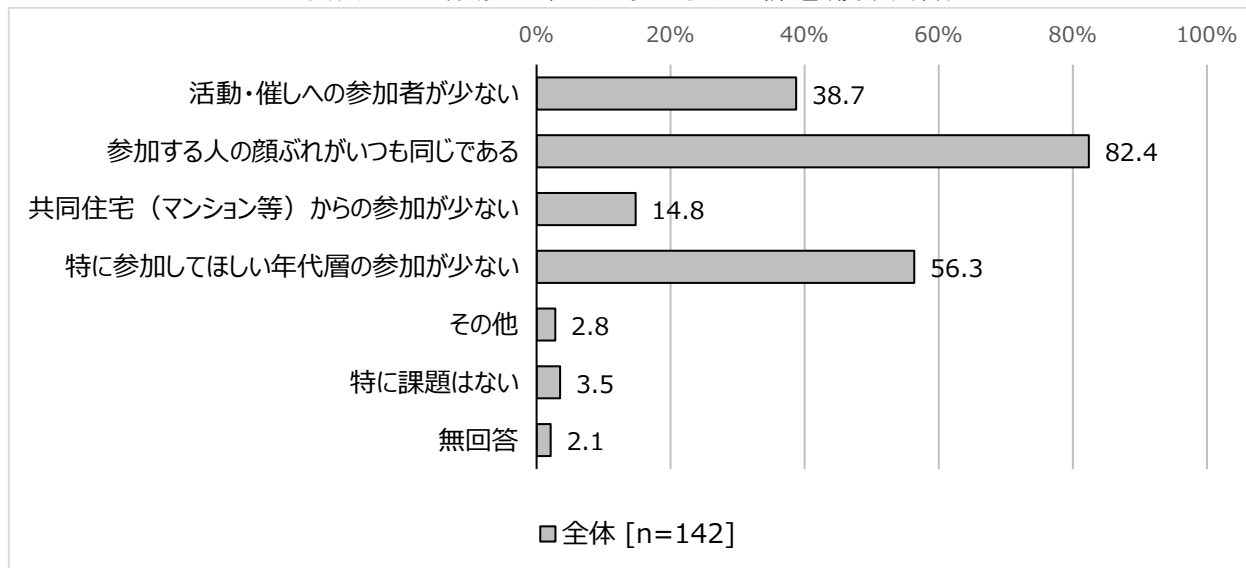
図表 16 活動を進めていくための課題（運営面）〔複数回答〕



④ 活動への住民の参加状況の課題（問 10③）

活動への住民の参加状況の課題は、「参加する人の顔ぶれがいつも同じである」が82.4%と最も多く、次いで「特に参加してほしい年代層の参加が少ない」が56.3%、「活動・催しへの参加者が少ない」が38.7%などとなっている。

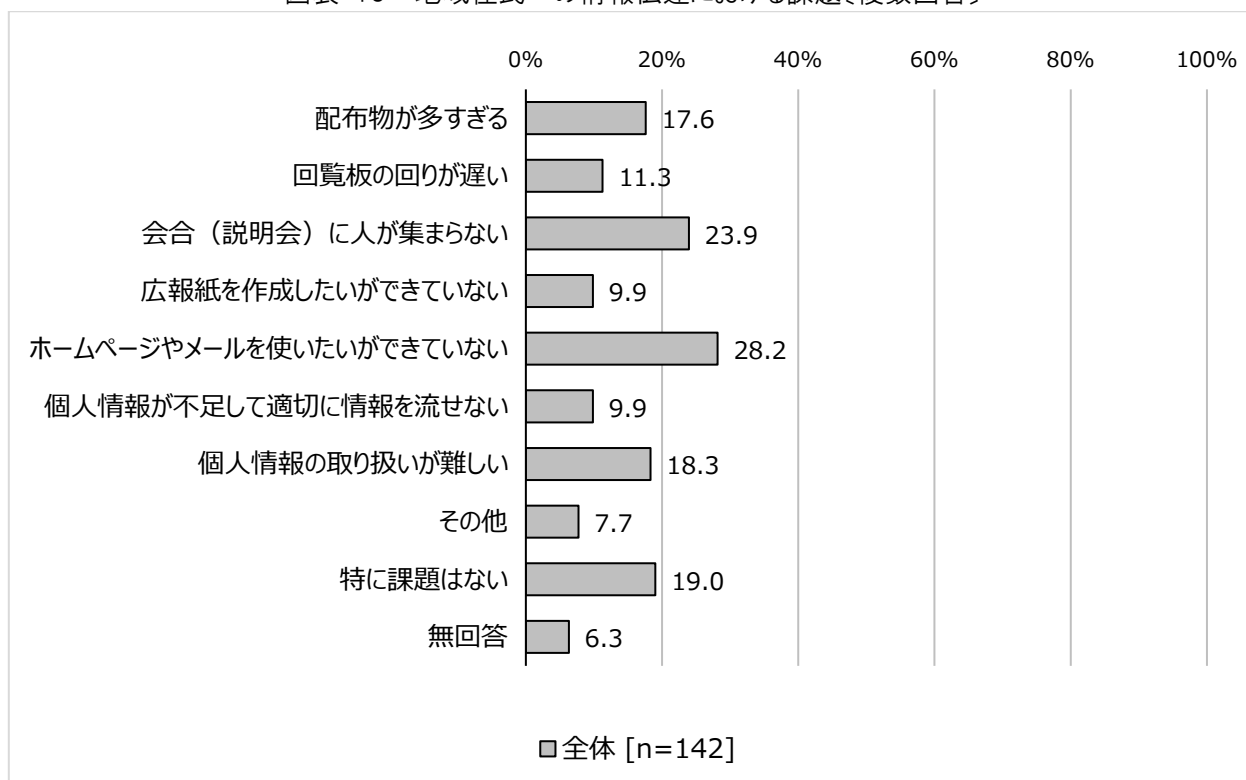
図表 17 活動への住民の参加状況の課題〔複数回答〕



⑤ 地域住民への情報伝達における課題（問 10④）

地域住民への情報伝達における課題は、「ホームページやメールを使いたいができない」が28.2%と最も多く、次いで「会合（説明会）に人が集まらない」が23.9%、「特に課題はない」が19.0%などとなっている。

図表 18 地域住民への情報伝達における課題〔複数回答〕

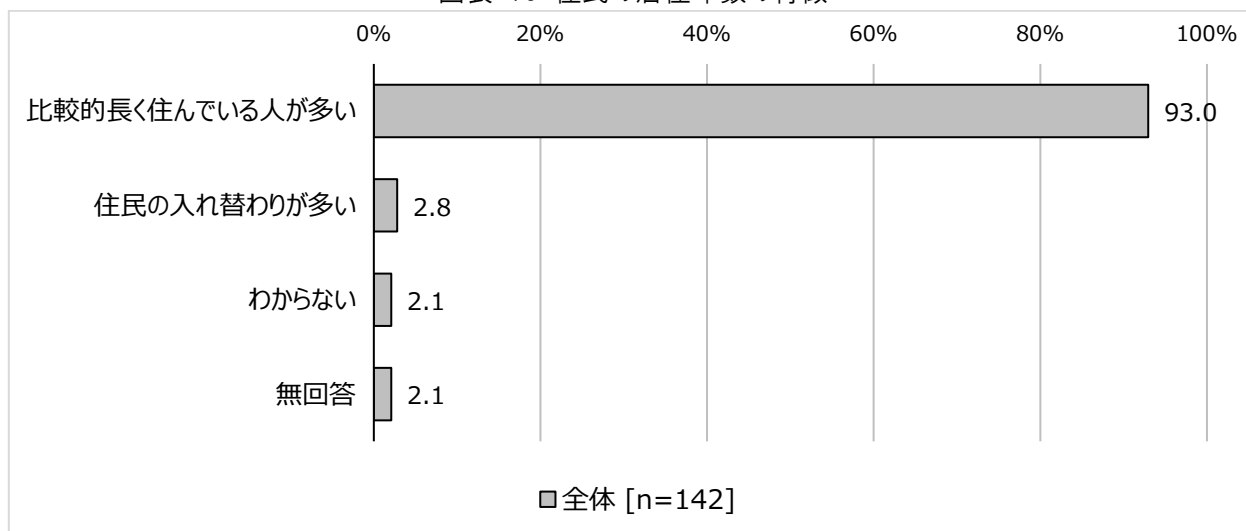


(7) 団体が活動している地域の状況等

① 住民の居住年数の特徴（問 14①）

住民の居住年数の特徴は、「比較的長く住んでいる人が多い」が93.0%と最も多くなっている。

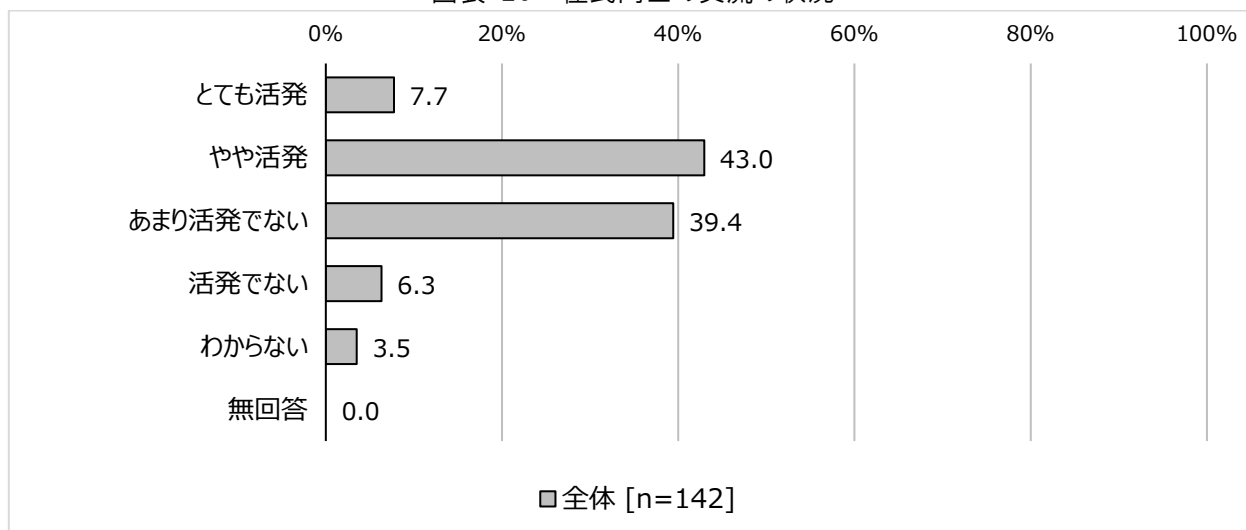
図表 19 住民の居住年数の特徴



② 住民同士の交流の状況（問 14②）

住民同士の交流の状況は、「やや活発」が43.0%と最も多く、次いで「あまり活発でない」が39.4%、「とても活発」が7.7%などとなっている。

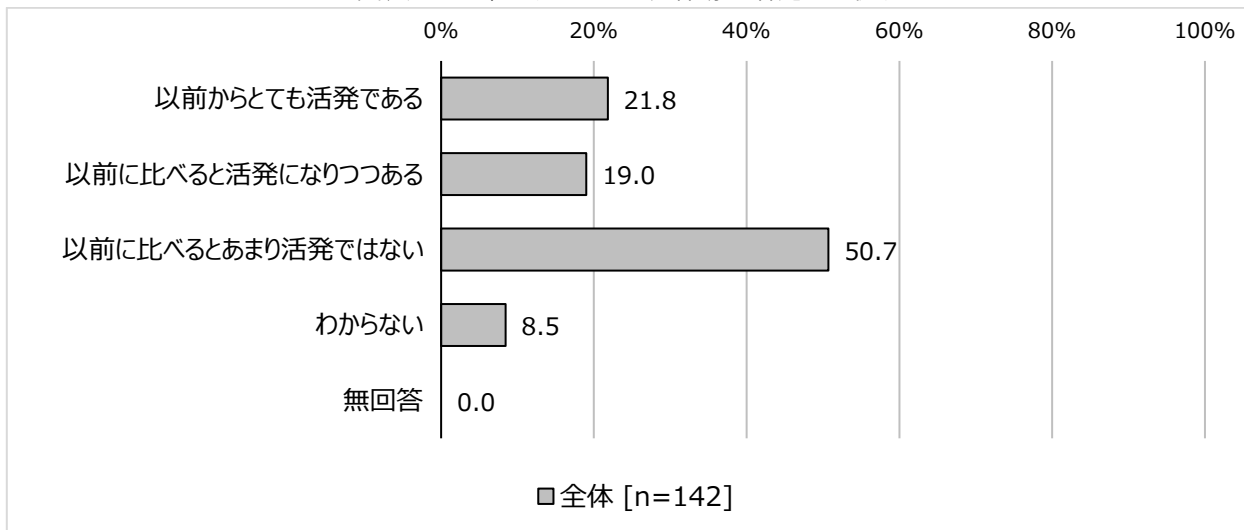
図表 20 住民同士の交流の状況



③ 住民による地域活動の活発さの状況（問 15）

住民による地域活動の活発さの状況は、「以前に比べるとあまり活発ではない」が50.7%と最も多く、次いで「以前からとても活発である」が21.8%、「以前に比べると活発になりつつある」が19.0%、「以前に比べるとあまり活発ではない」が19.0%などとなっている。

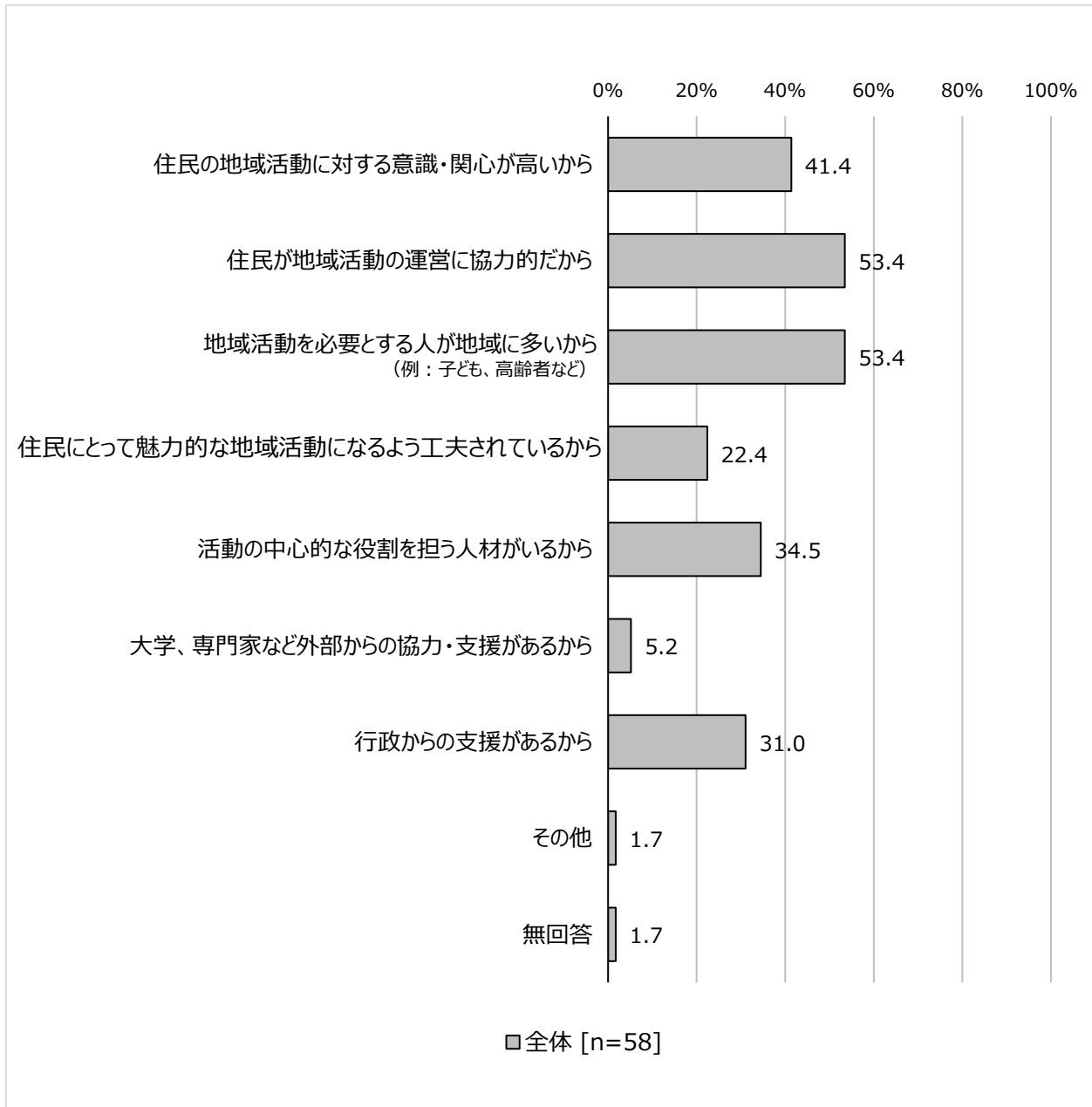
図表 21 住民による地域活動の活発さの状況



④ 活発になっている理由（問 16）

活発になっている理由は、「住民が地域活動の運営に協力的だから」と「地域活動を必要とする人（例：子ども、高齢者など）が地域に多いから」が53.4%と最も多く、次いで「住民の地域活動に対する意識・関心が高いから」が41.4%などとなっている。

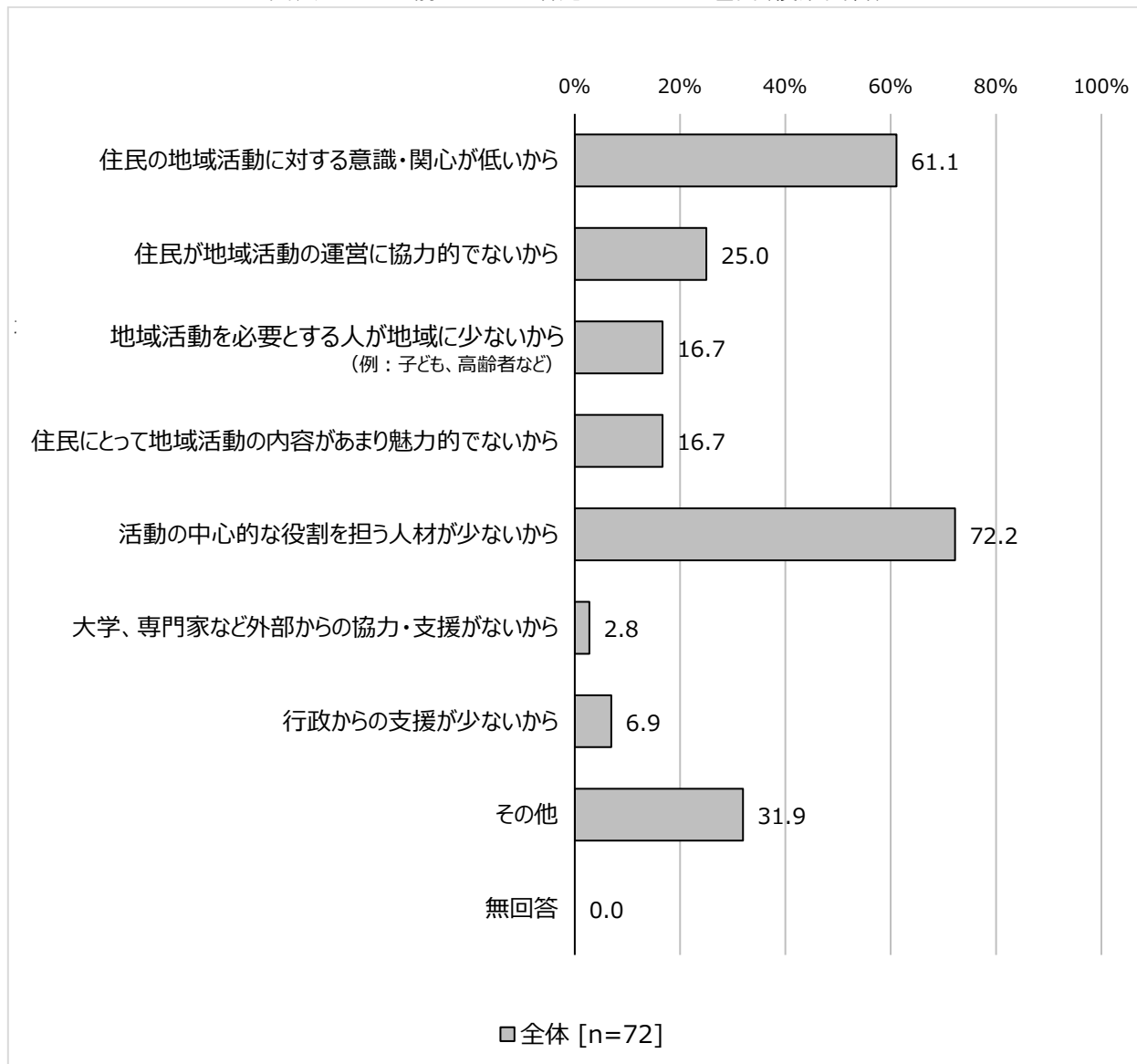
図表 22 活発になっている理由〔複数回答〕



⑤ 以前に比べて活発でなくなった理由（問 17）

以前に比べて活発でなくなった理由は、「活動の中心的な役割を担う人材が少ないから」が72.2%と最も多く、次いで「住民の地域活動に対する意識・関心が低いから」が61.1%、「その他」が31.9%などとなっている。

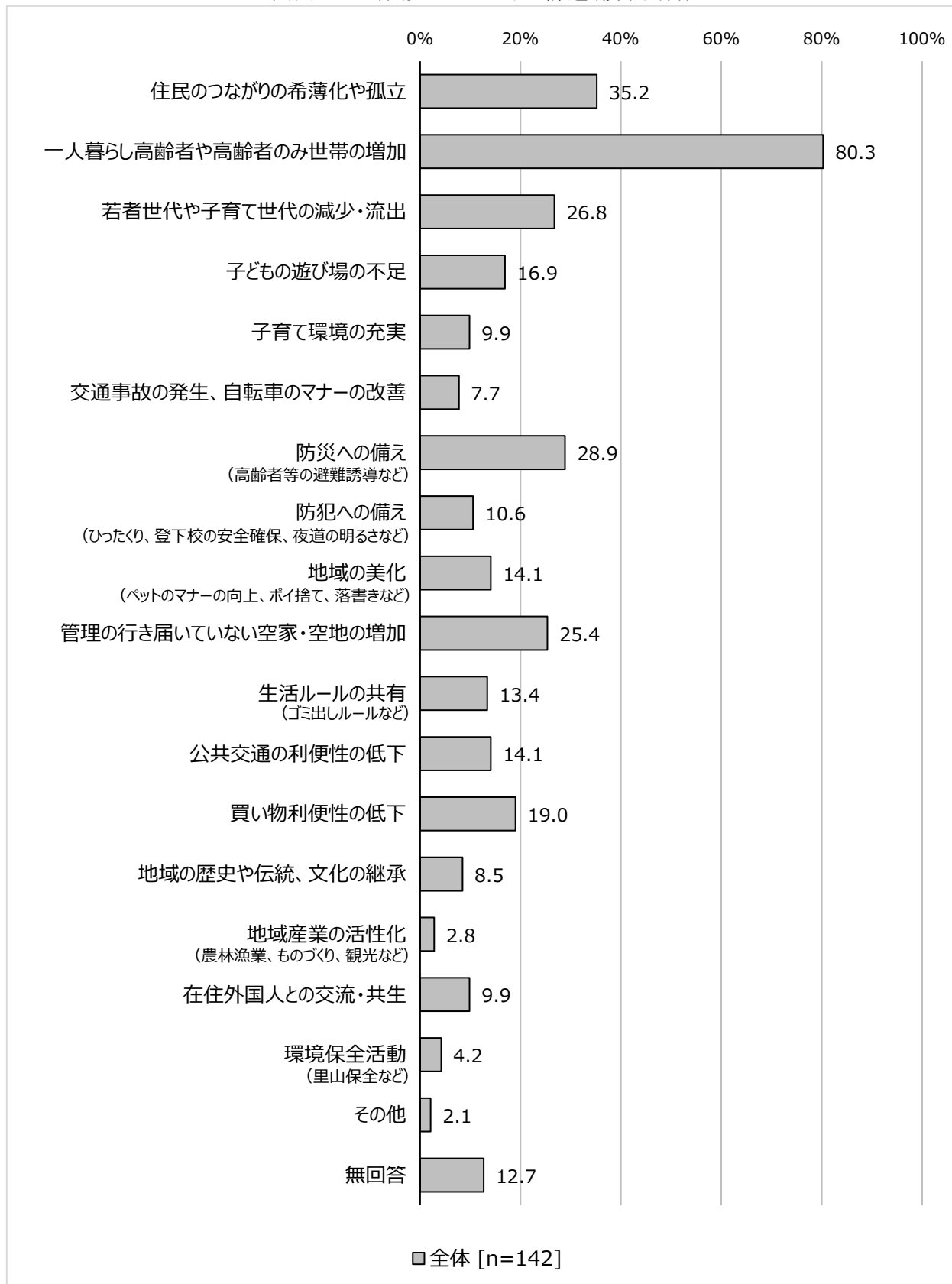
図表 23 以前に比べて活発でなくなった理由〔複数回答〕



⑥活動している地域の課題（問 18）

活動している地域の課題は、「一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加」が80.3%と最も多く、次いで「住民のつながりの希薄化や孤立」が35.2%、「防災への備え（高齢者等の避難誘導など）」が28.9%などとなっている。

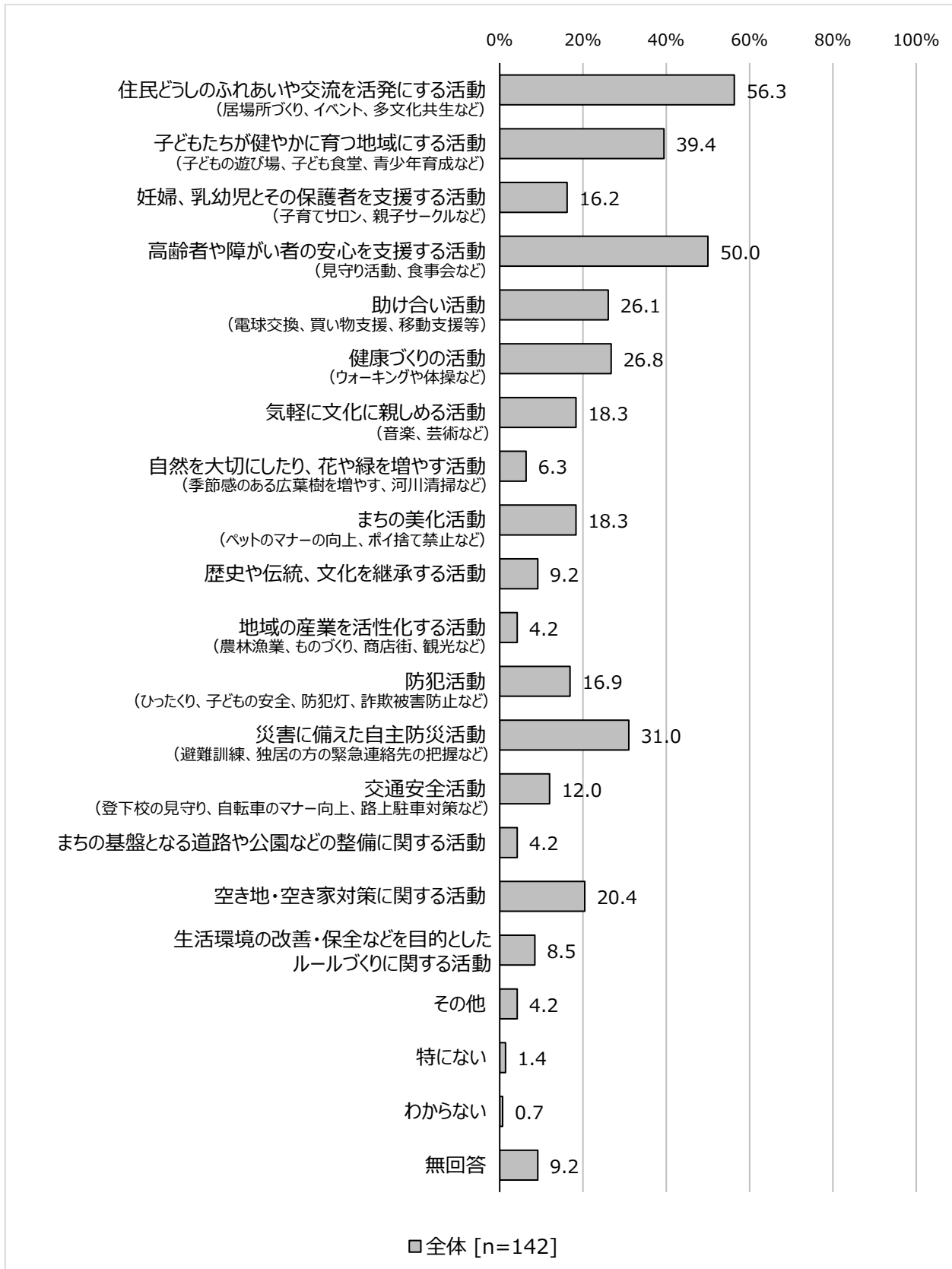
図表 24 活動している地域の課題〔複数回答〕



⑦課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問 19）

課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なことは、「住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動（居場所づくり、イベント、多文化共生など）」が56.3%と最も多く、次いで「高齢者や障がい者の安心を支援する活動（見守り活動、食事会など）」が50.0%などとなっている。

図表 25 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと〔複数回答〕

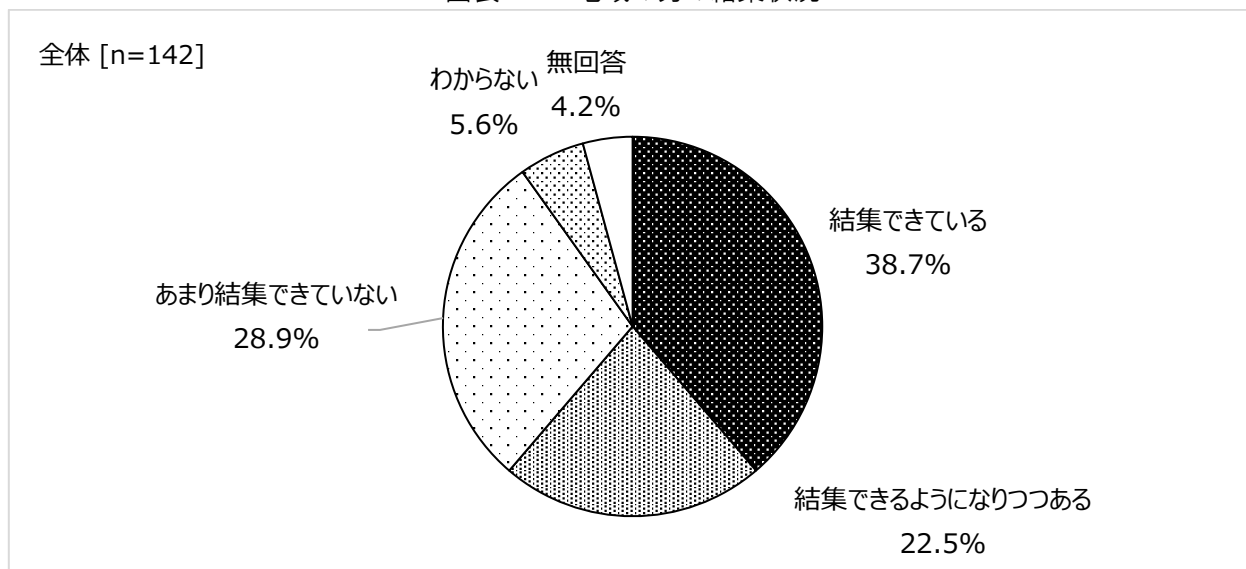


(8) 今後の活動に向けて

①地域の力の結集状況（問 20）

地域の力の結集状況は、「結集できている」が38.7%と最も多く、次いで「あまり結集できていない」が28.9%、「結集できるようになりつつある」が22.5%などとなっている。

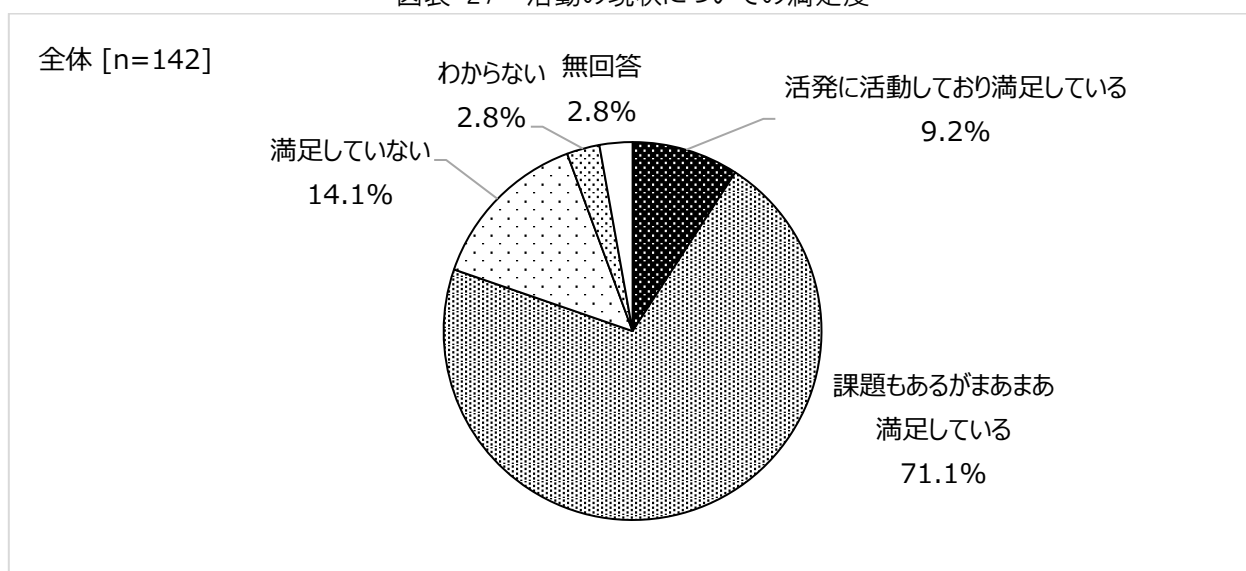
図表 26 地域の力の結集状況



②活動の現状についての満足度（問 21）

活動の現状についての満足度は、「課題もあるがまあまあ満足している」が71.1%と最も多く、次いで「満足していない」が14.1%、「活発に活動しており満足している」が9.2%などとなっている。

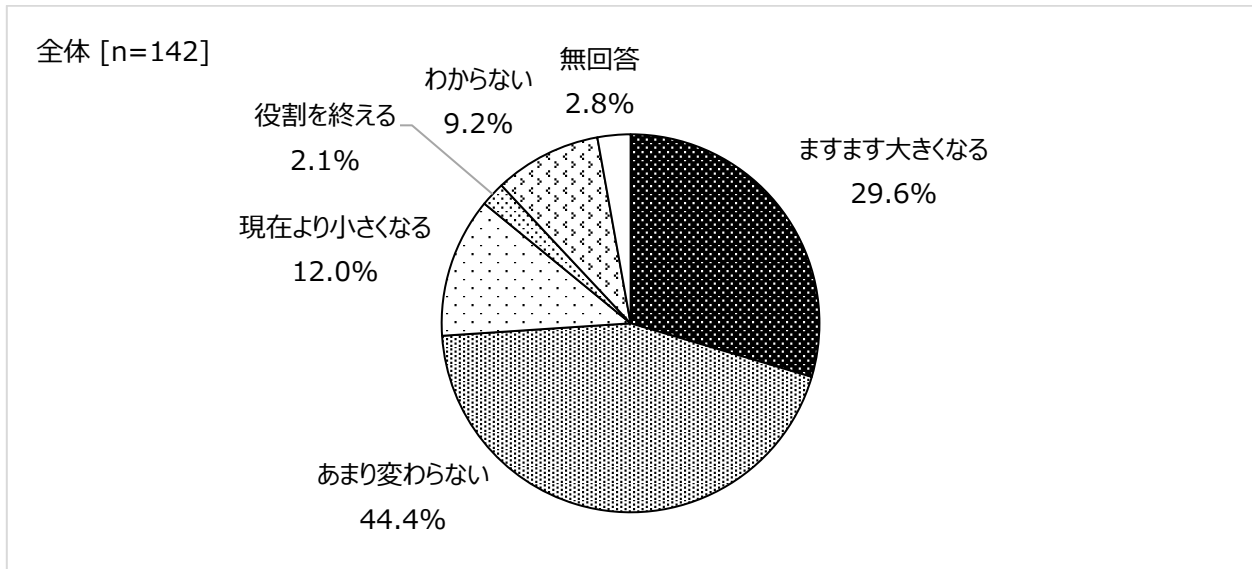
図表 27 活動の現状についての満足度



③ 団体が担う役割の今後についての考え（問 22）

団体が担う役割の今後についての考えは、「あまり変わらない」が44.4%と最も多く、次いで「ますます大きくなる」が29.6%、「現在より小さくなる」が12.0%などとなっている。

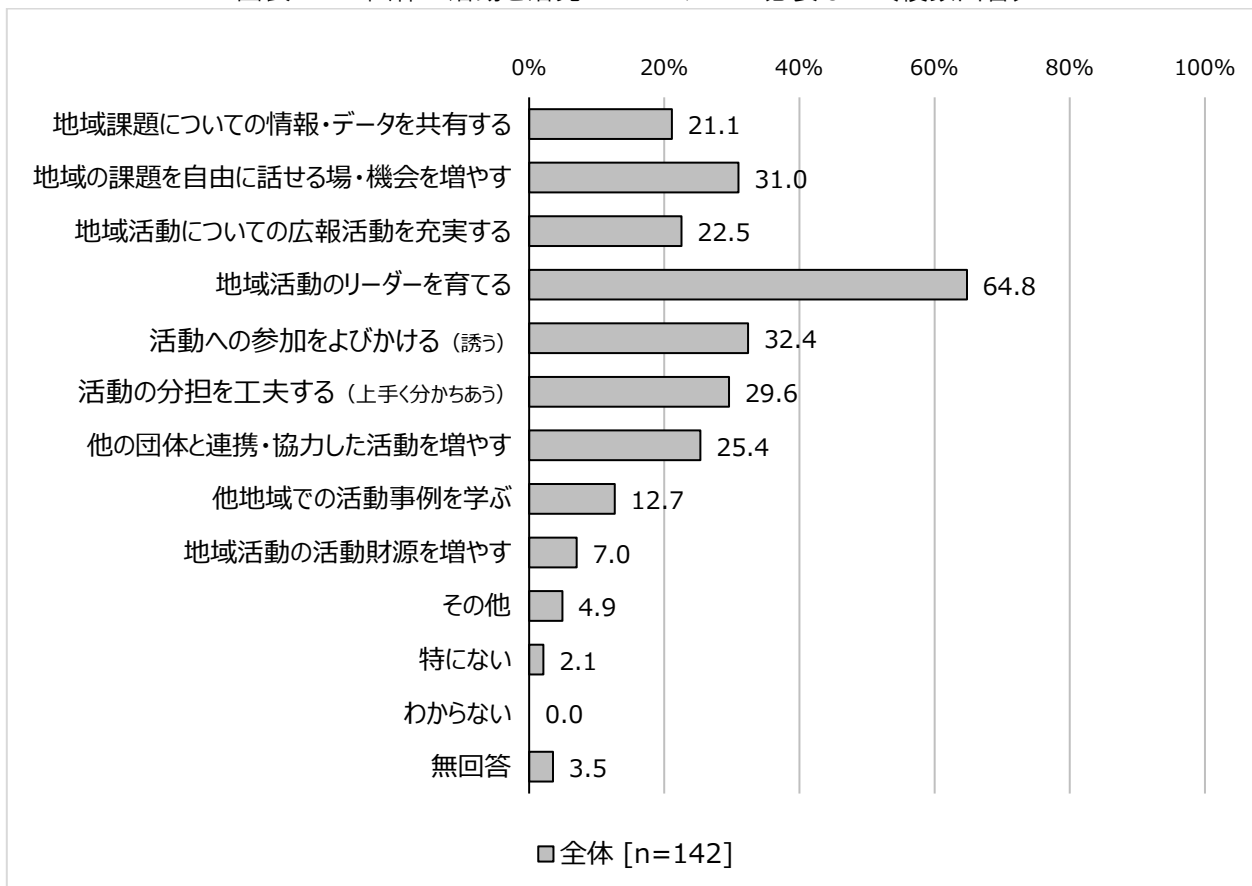
図表 28 団体が担う役割の今後についての考え



④ 団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問 23）

団体の活動を活発にしていくために必要なことは、「地域活動のリーダーを育てる」が64.8%と最も多く、次いで「活動への参加をよびかける（誘う）」が32.4%、「地域の課題を自由に話せる場・機会を増やす」が31.0%などとなっている。

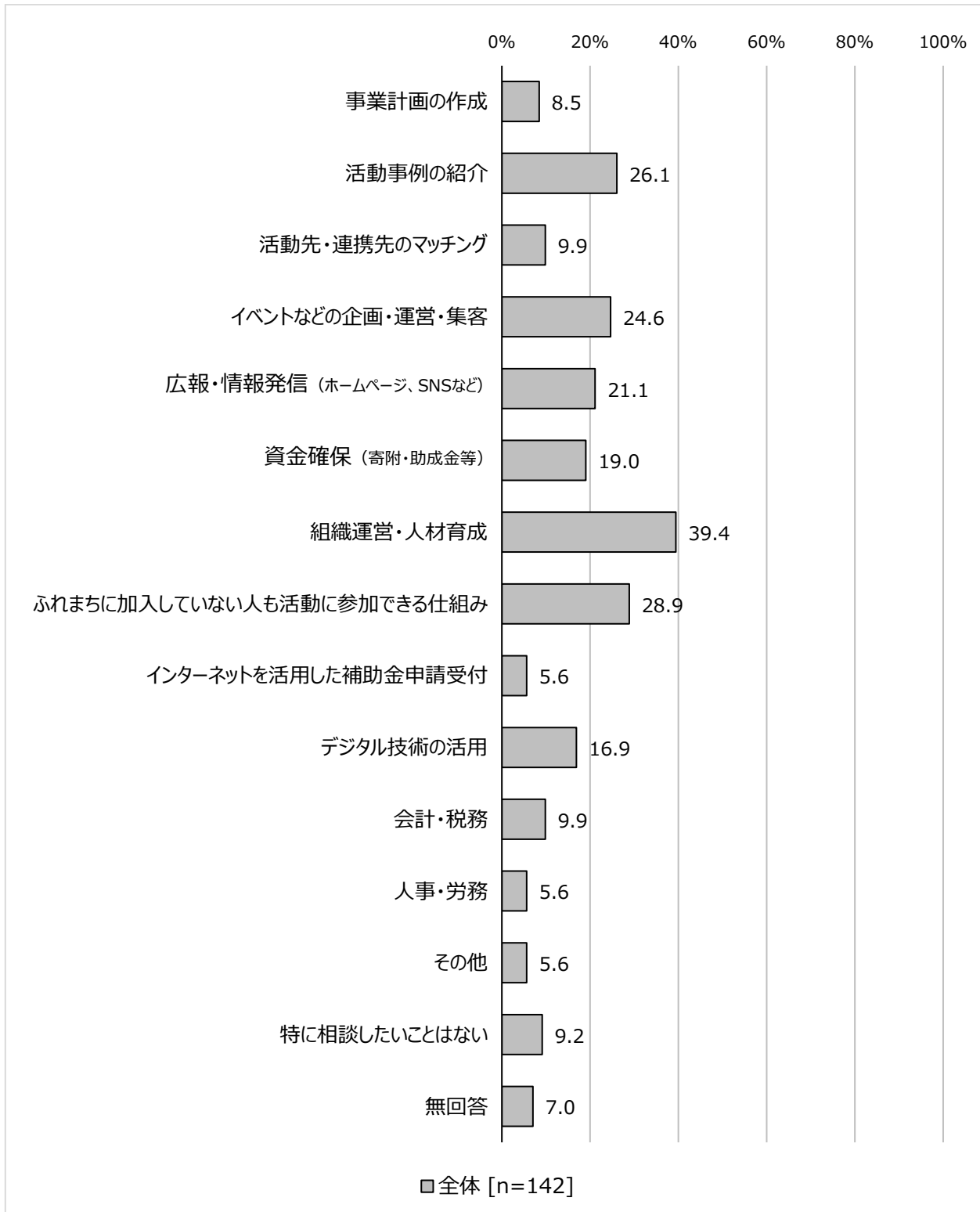
図表 29 団体の活動を活発にしていくために必要なこと〔複数回答〕



⑤ 市に相談したいことや支援を希望すること（問 25）

市に相談したいことや支援を希望することは、「組織運営・人材育成」が39.4%と最も多く、次いで「ふれまちに加入していない人も活動に参加できる仕組み」が28.9%、「活動事例の紹介」が26.1%などとなっている。

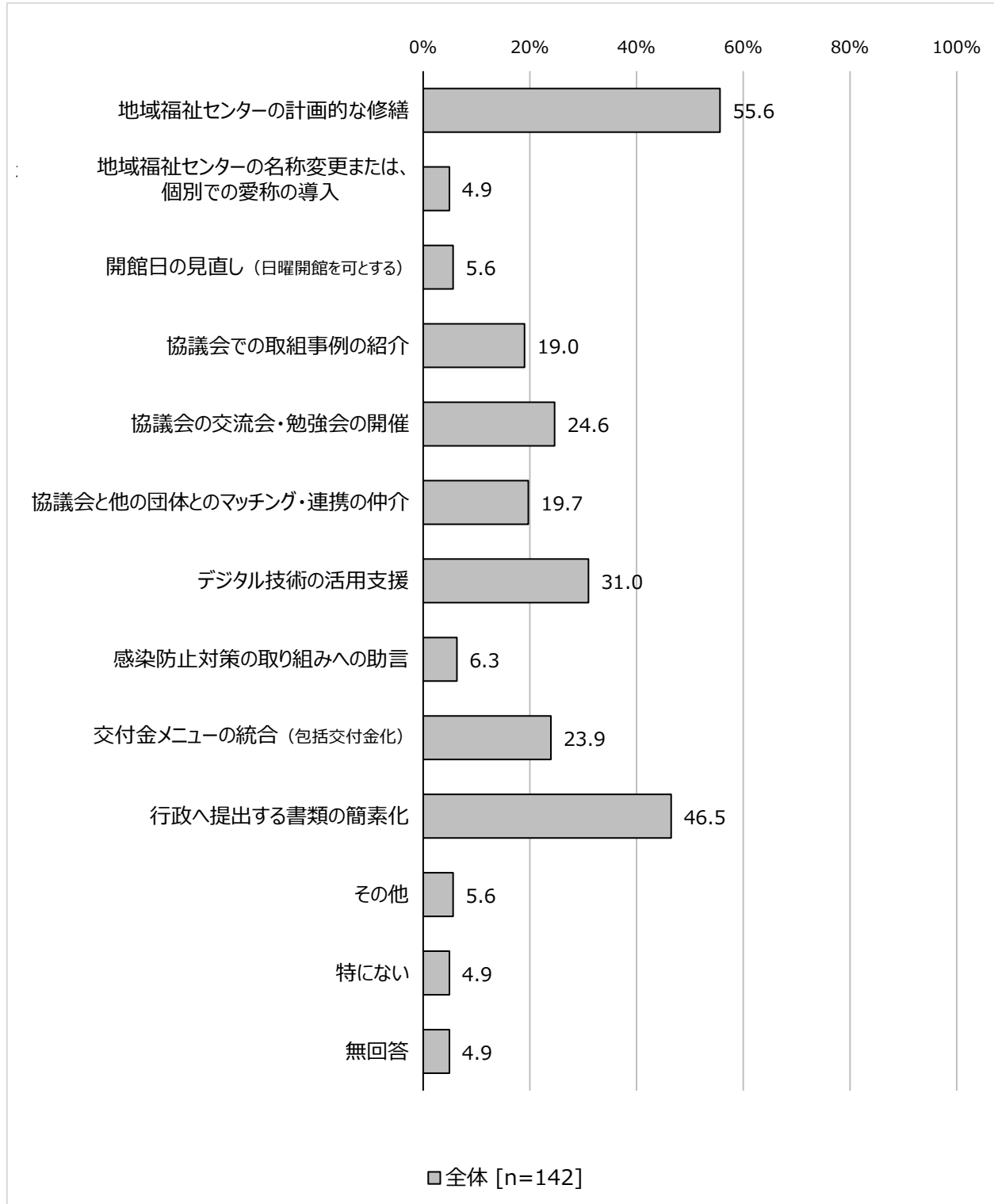
図表 30 市に相談したいことや支援を希望すること〔複数回答〕



⑥ 行政に期待する取り組み（問 26）

行政に期待する取り組みは、「地域福祉センターの計画的な修繕」が55.6%と最も多く、次いで「行政へ提出する書類の簡素化」が46.5%、「デジタル技術の活用支援」が31.0%などとなっている。

図表 31 行政に期待する取り組み〔複数回答〕



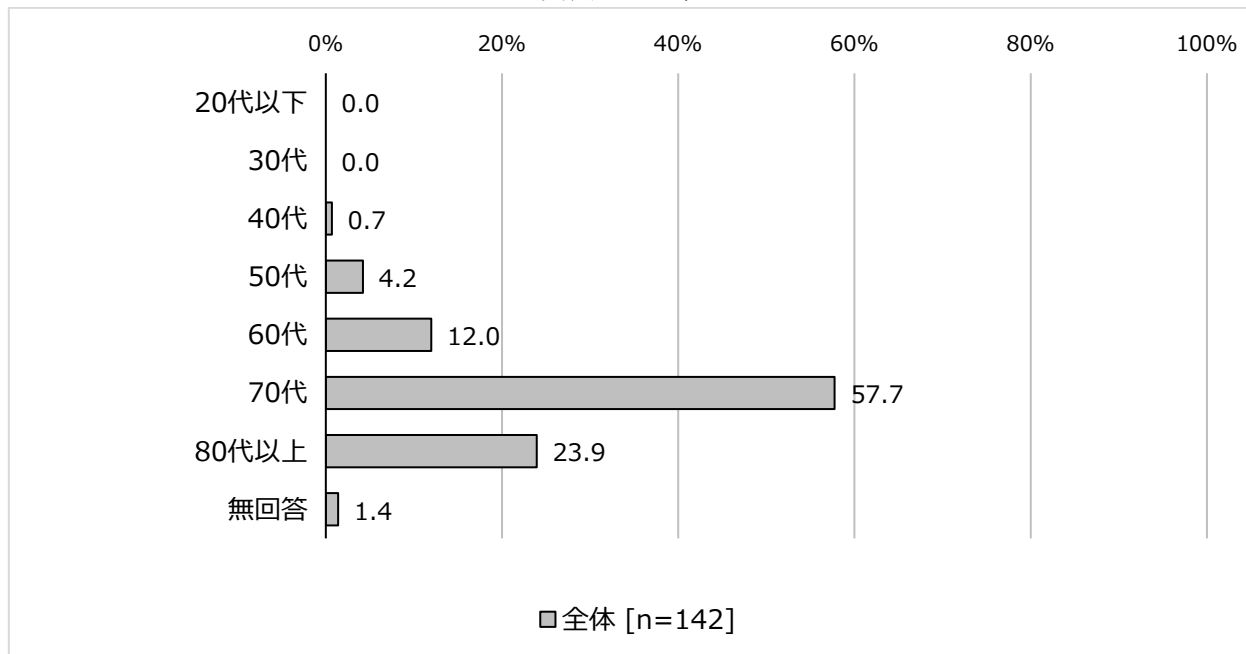
(9) 代表の活動状況

①代表（回答者）の状況（問 35）

(7) 年代

年代は、「70代」が57.7%と最も多く、次いで「80代以上」が23.9%、「60代」が12.0%などとなっている。

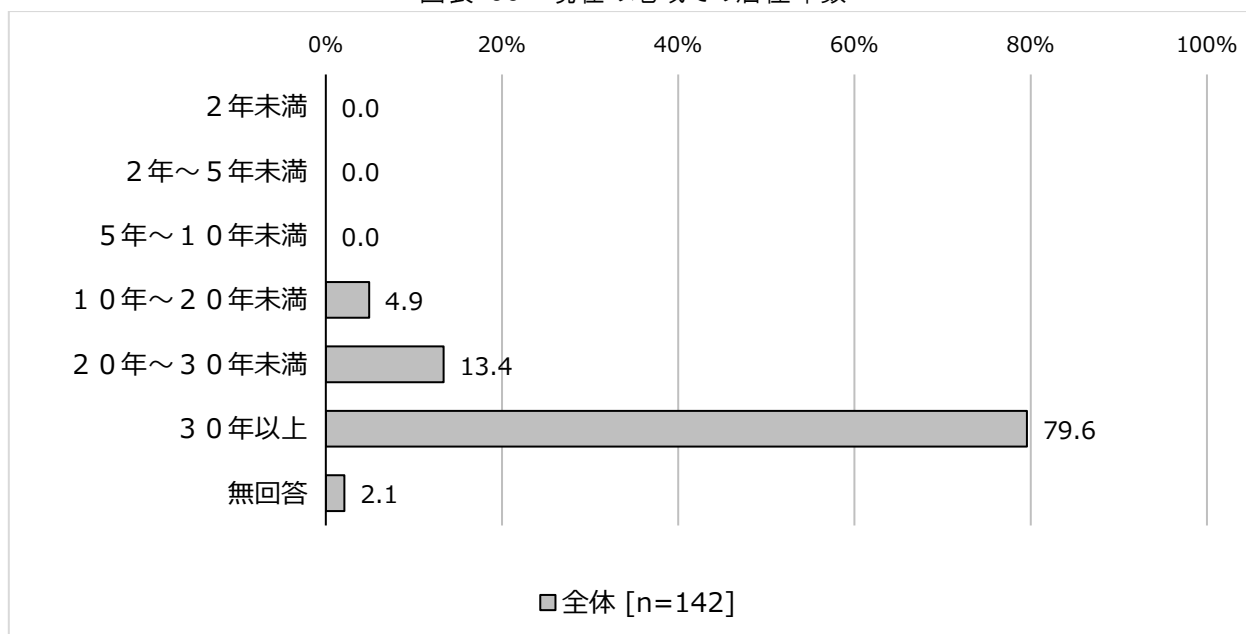
図表 32 年代



(イ) 現在の地域での居住年数

現在の地域での居住年数は、「30年以上」が79.6%と最も多く、次いで「20年～30年未満」が13.4%、「10年～20年未満」が4.9%などとなっている。

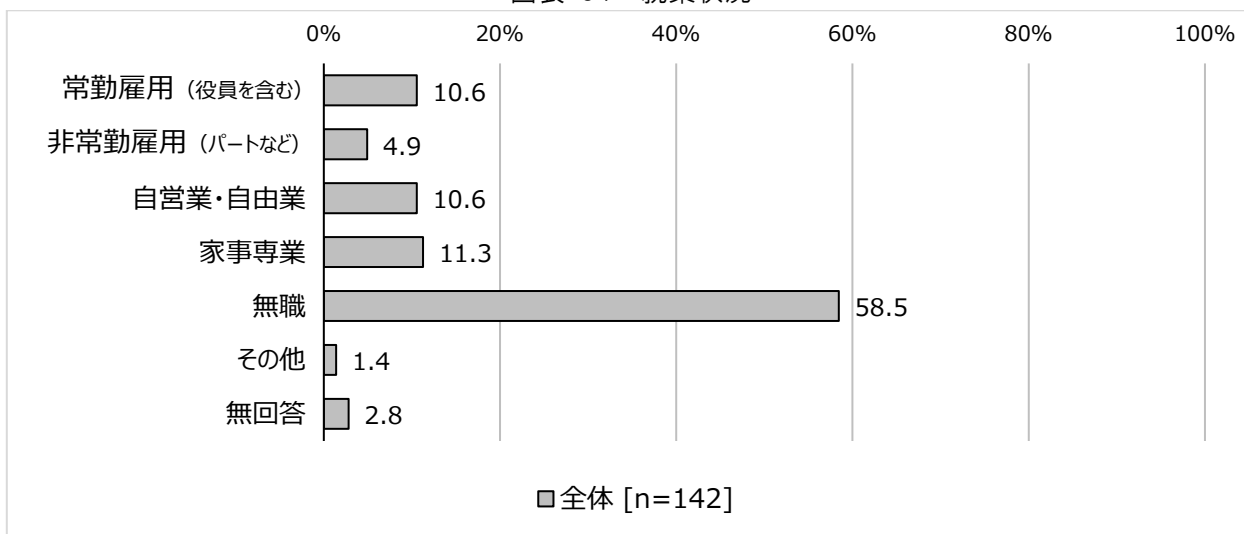
図表 33 現在の地域での居住年数



(ウ) 就業状況

就業状況は、「無職」が58.5%と最も多く、次いで「家事専業」が11.3%、「常勤雇用（役員を含む）」と「自営業・自由業」が10.6%などとなっている。

図表 34 就業状況



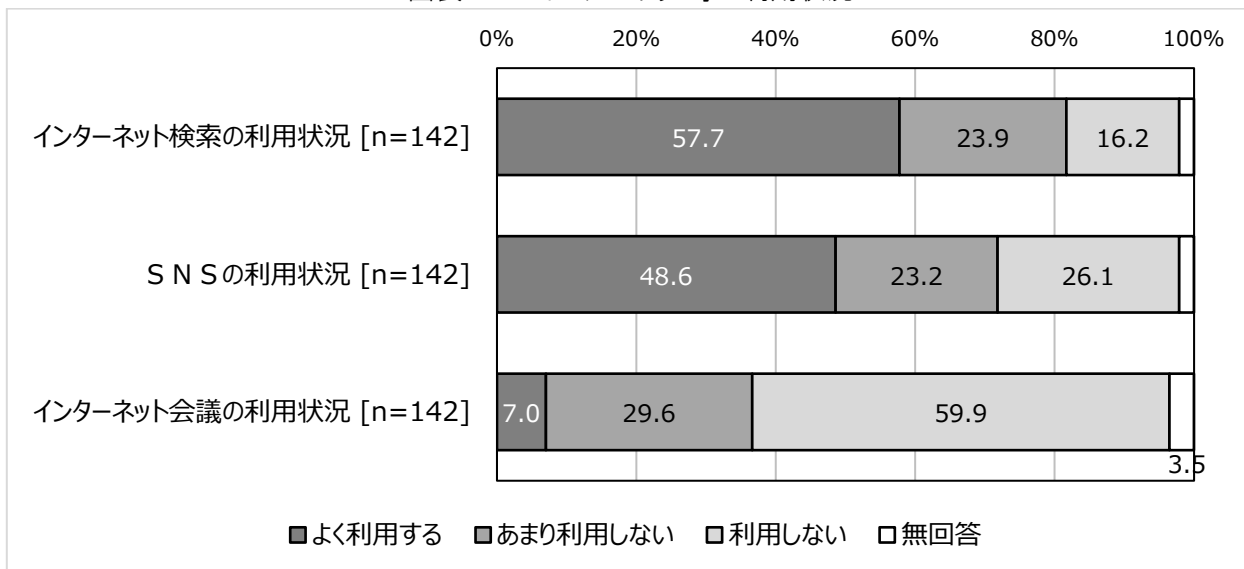
(エ) インターネット等の利用状況

インターネット検索の利用状況は、「よく利用する」が57.7%と最も多く、次いで「あまり利用しない」が23.9%、「利用しない」が16.2%となっている。

SNSの利用状況は、「よく利用する」が48.6%と最も多く、次いで「利用しない」が26.1%、「あまり利用しない」が23.2%となっている。

インターネット会議の利用状況は、「利用しない」が59.9%と最も多く、次いで「あまり利用しない」が29.6%、「よく利用する」が7.0%となっている。

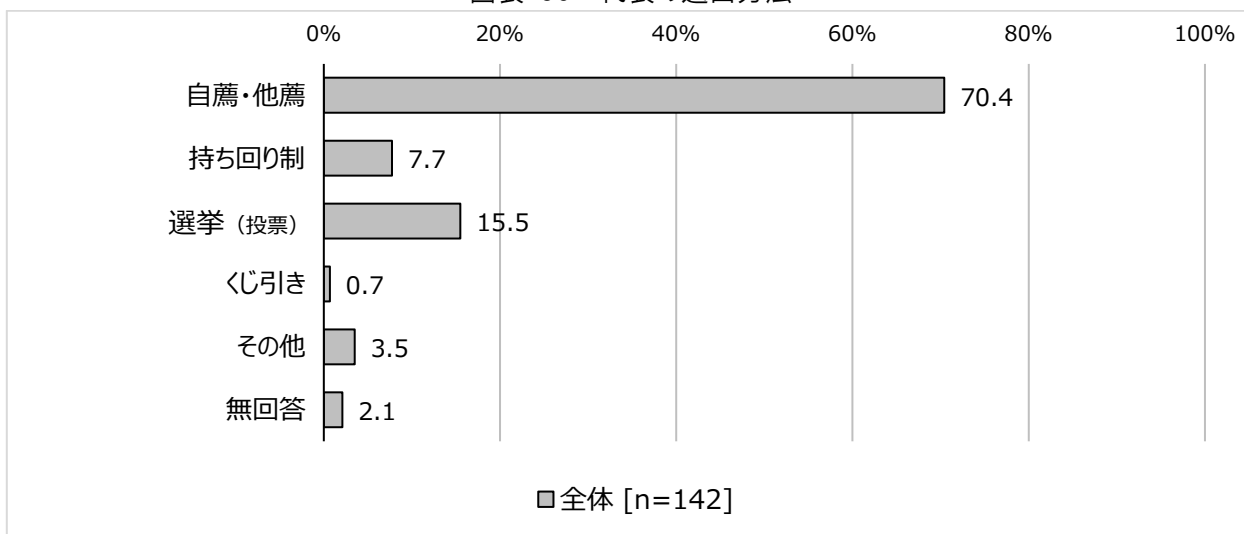
図表 35 インターネット等の利用状況



② 代表の選出方法（問 28）

代表の選出方法は、「自薦・他薦」が70.4%と最も多く、次いで「選挙（投票）」が15.5%、「持ち回り制」が7.7%などとなっている。

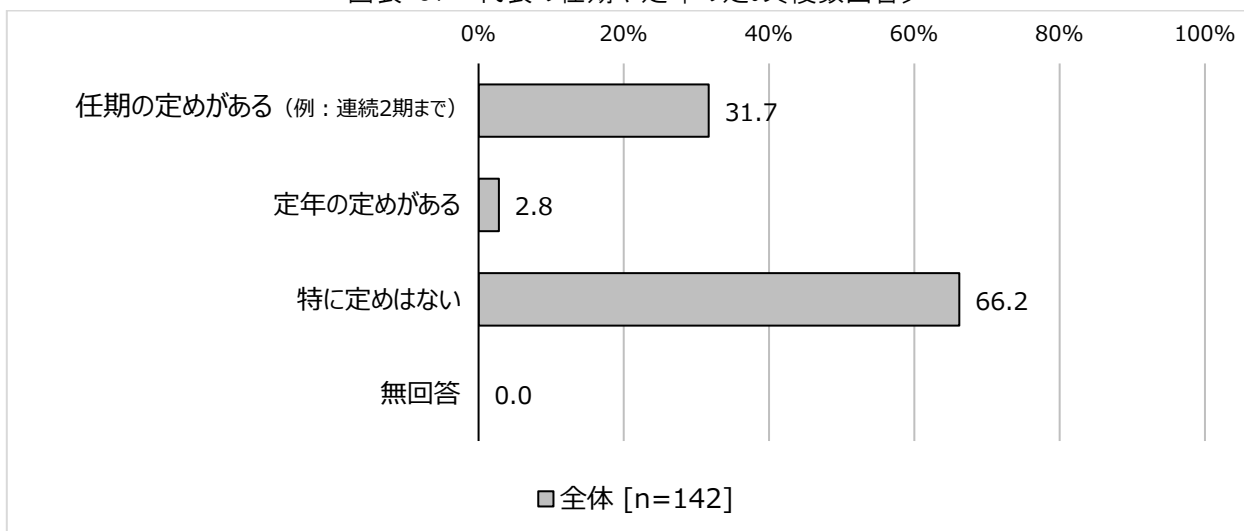
図表 36 代表の選出方法



③ 代表の任期や定年の定め（問 29）

代表の任期や定年の定めは、「特に定めはない」が66.2%と最も多く、次いで「任期の定めがある（例：連続2期まで）」が31.7%、「定年の定めがある」が2.8%となっている。

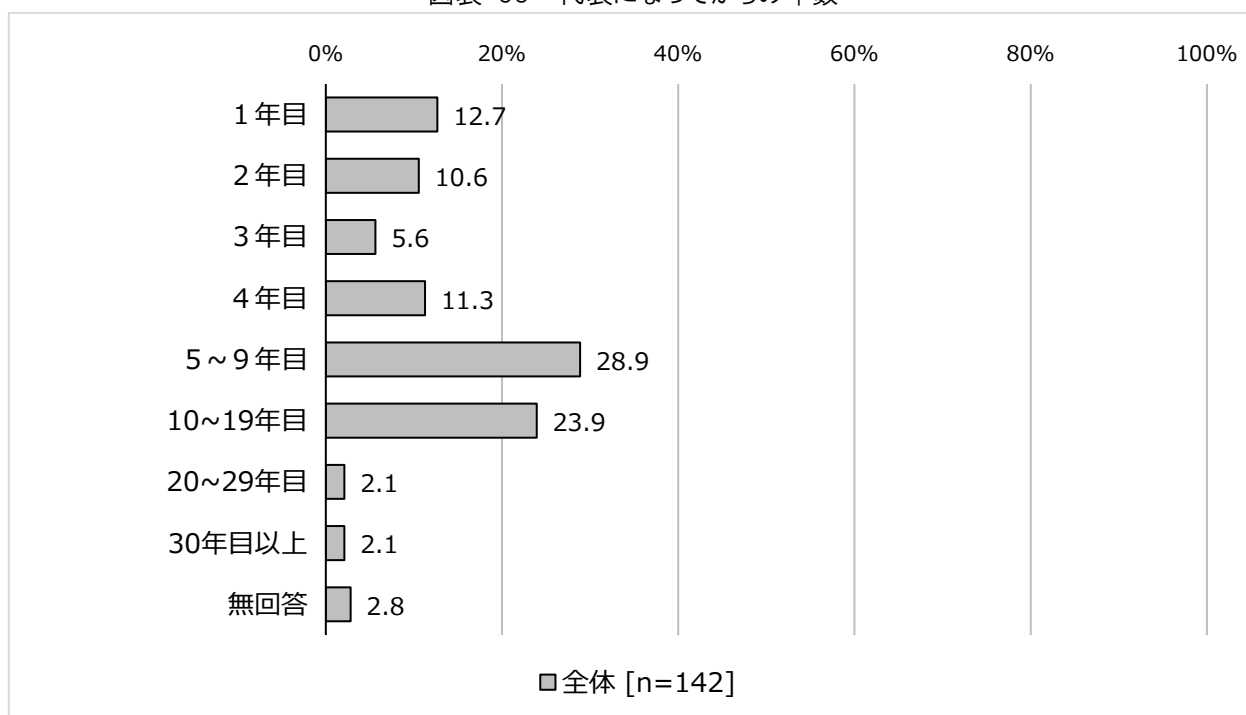
図表 37 代表の任期や定年の定め〔複数回答〕



④ 代表になってからの年数（問 30）

代表になってからの年数は、「5～9年目」が28.9%と最も多く、次いで「10～19年目」が23.9%、「1年目」が12.7%などとなっている。

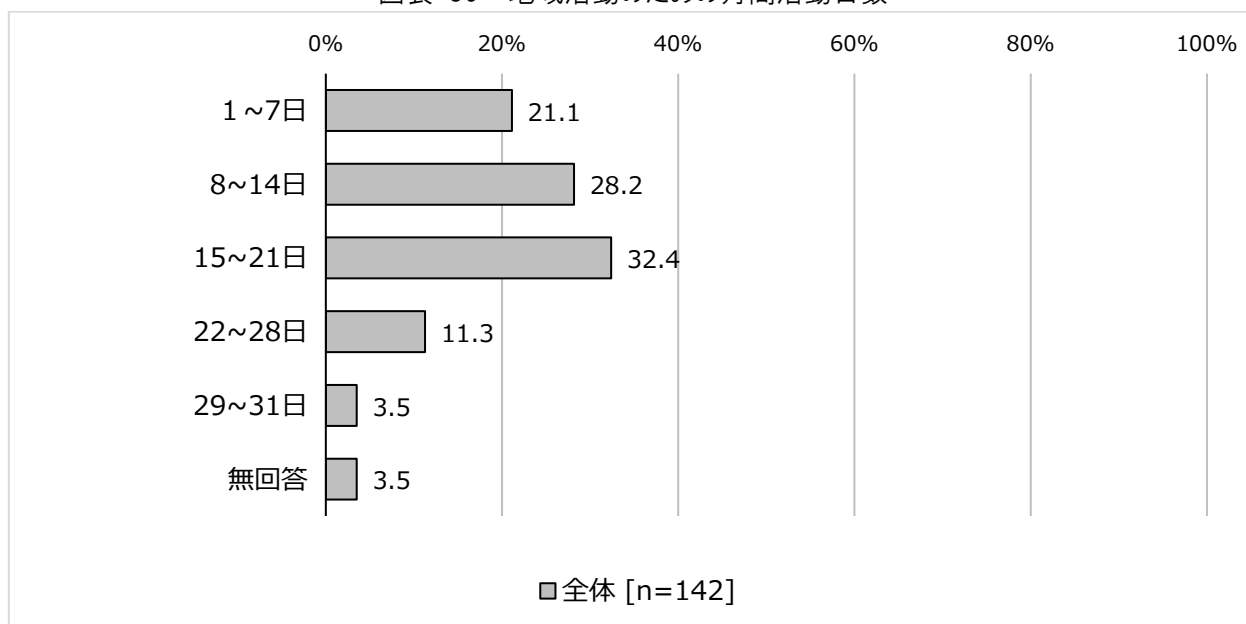
図表 38 代表になってからの年数



⑤ 地域活動のための月間活動日数（問 33）

地域活動のための月間活動日数は、「15～21日」が32.4%と最も多く、次いで「8～14日」が28.2%、「1～7日」が21.1%などとなっている。

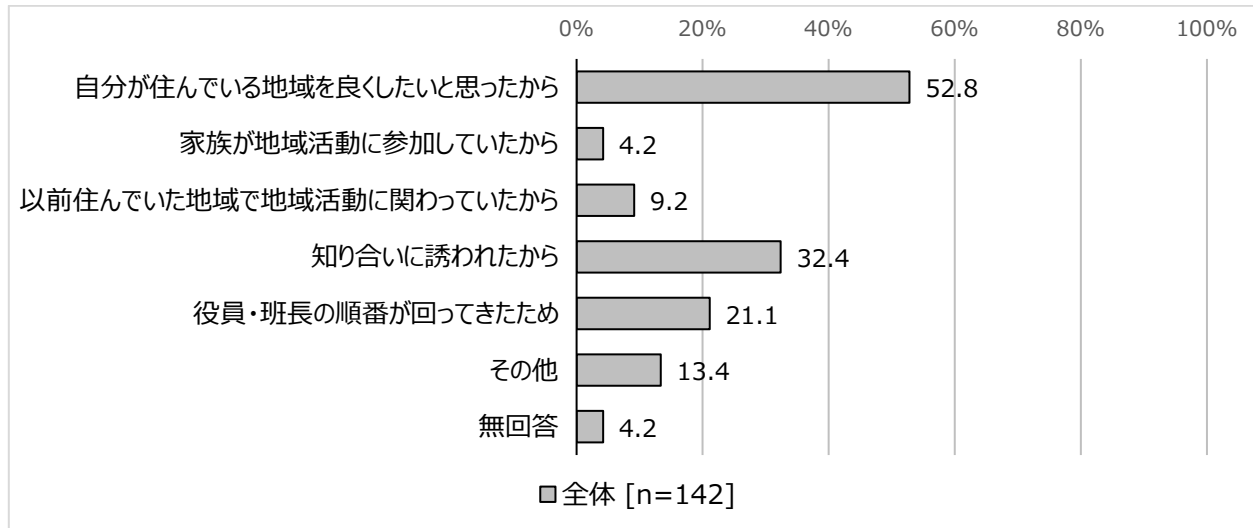
図表 39 地域活動のための月間活動日数



⑥地域活動の担い手として参加したきっかけ（問 31）

地域活動の担い手として参加したきっかけは、「自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから」が52.8%と最も多く、次いで「知り合いに誘われたから」が32.4%、「役員・班長の順番が回ってきたため」が21.1%などとなっている。

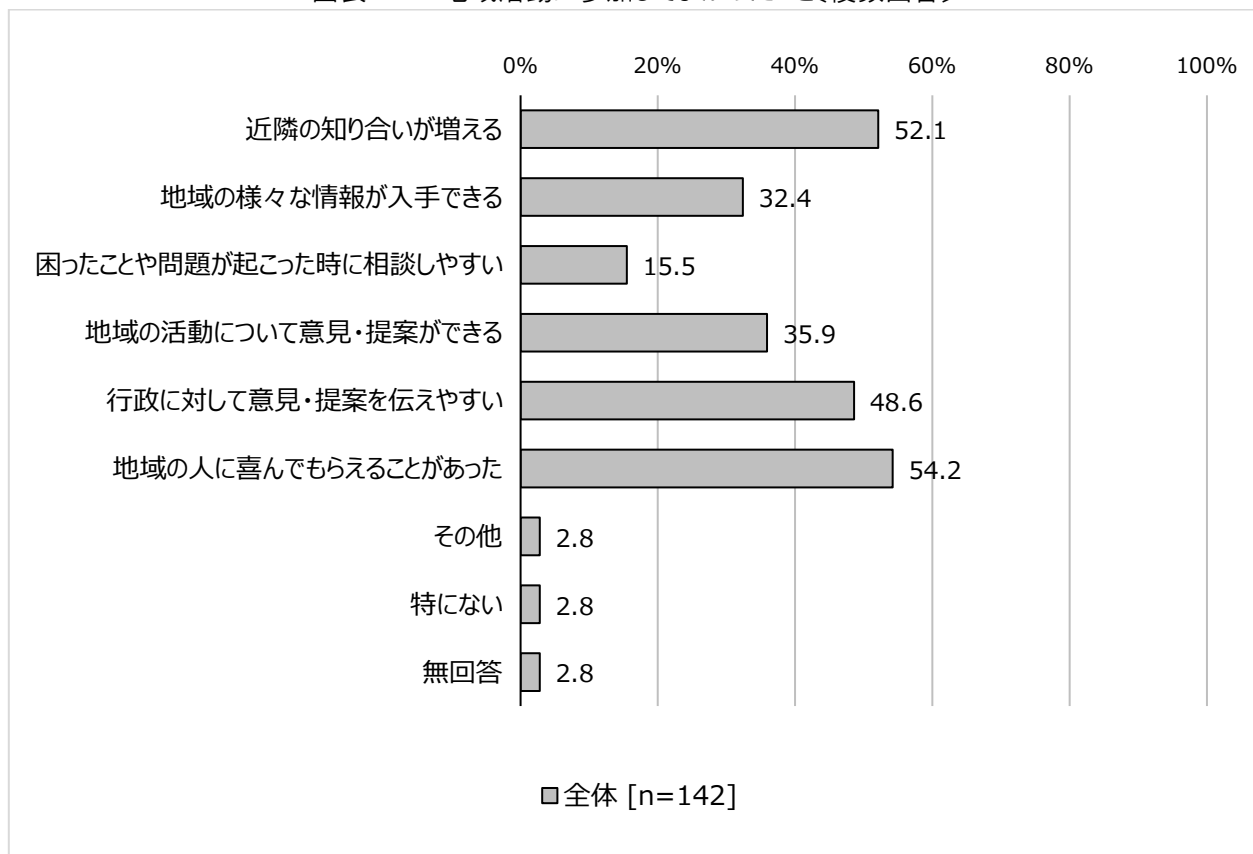
図表 40 地域活動の担い手として参加したきっかけ〔複数回答〕



⑦ 地域活動に参加してよかったこと（問 32）

地域活動に参加してよかったことは、「地域の人に喜んでもらえることがあった」が54.2%と最も多く、次いで「近隣の知り合いが増える」が52.1%、「行政に対して意見・提案を伝えやすい」が48.6%などとなっている。

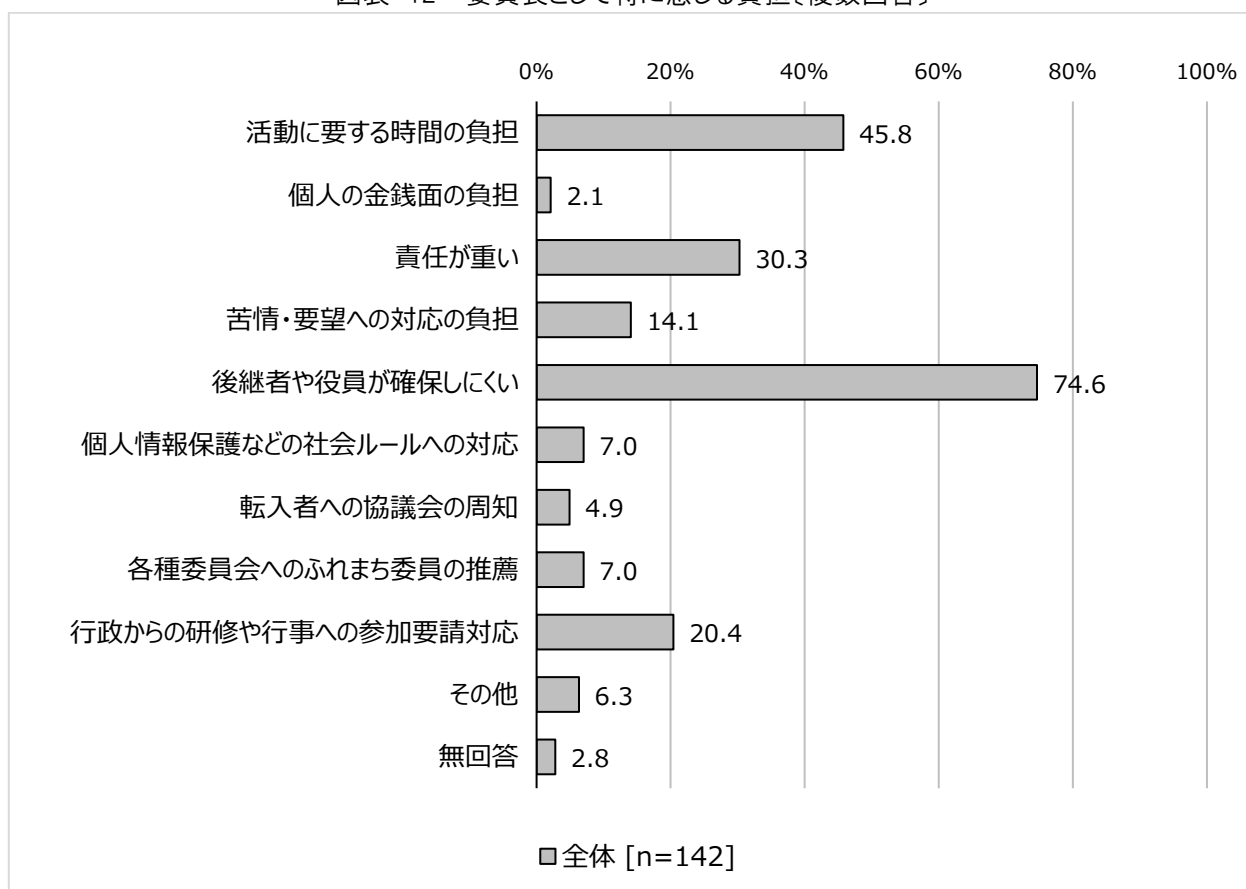
図表 41 地域活動に参加してよかったこと〔複数回答〕



⑧委員長として特に感じる負担（問 34）

委員長として特に感じる負担は、「後継者や役員が確保しにくい」が74.6%と最も多く、次いで「活動に要する時間の負担」が45.8%、「責任が重い」が30.3%などとなっている。

図表 42 委員長として特に感じる負担〔複数回答〕



(10) 自由意見

①運営での工夫（問24）、ふれまち活動について感じていること（問27）

区分	主なご意見
意義・役割	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にふれあいのまちづくり協議会や地域福祉センターがあることで、地域の交流が盛んで、自治会をはじめ他の地域団体が活発に交流にできていると思う。 ・多世代が利用できる場所であり、これからも利用者が増えると思う。 ・地域福祉の充実のために、ますます、ふれまち活動や地域福祉センターの役割が大きくなって来ると思う。これかも力を合わせて頑張っていきたい。 ・秋まつりのような大きな行事が開催できないため、ふれまちの良さ・強みを知ってもらうことがなかなかできていない。 ・地域福祉センターの運営とふれまち活動を分離することが必要と思われる。
企画	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容がマンネリ化し、実施内容が同じで魅力に欠けている。 ・活動がマンネリ化しており、新たな活動を模索している。 ・地域の高齢化が進んでおり、高齢化対応がふれまちの活動の最大のテーマと考えている。 ・地域福祉センター活動が固定化しないように、多くの方が利用しやすいセンターになるように思っている。 ・各行事の責任者、部会の部会長を中心に企画・運営している。 ・今後の地域活動に活かすために、住民ニーズを把握するためのアンケート調査を実施する。 ・オールドタウン化の懸念を払拭するためには、各ふれまち協の連携取組が重要と考え、ふれまち協が連携してイベントを開催する。 ・常に活動対象事業や内容を見直している（継続・中止・新規や内容の見直し、ブラッシュアップ）。
活動	<ul style="list-style-type: none"> ・立地は決して良いとは言えないが、サークル活動が活発で、区外からの参加者も増えている。 ・高齢者に対する事業への参加者が減少している。 ・住民のいろんな人（同好会）に利用して頂いているが、若い人の利用が少ない。 ・コロナ禍で活動を休止していたので、再開に必要なエネルギーや人材を確保できるかが不安である。 ・コロナによる様々な制限が解除されたあと、以前の状況に戻すのには時間がかかると思う。 ・地域内の商店主の特性を生かしたイベント（餅つき）を実施し、子供達に喜んでもらった。 ・新たに「外国にツールを持つ子ども達」の学習支援を立ち上げた。 ・幅広い年齢層の方が参加できる行事を年6回程度開催している。 ・地域の人々の困り事を手伝う「暮らしサポート」を新たに開始した。
体制確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれまち活動を担う人たちが高齢化し、新しく参加してくれる人がいない。 ・委員の高齢化が進んでいるが、新しい人材が集まらない。 ・高齢者が多く、顔ぶれが同じである。若い現役世代の参加が必要である。 ・後継者づくりが一番の課題である。 ・若者がもっと参加できるようにしたい。 ・リーダーになる人がなかなか発掘できない。 ・特定の人の善意や好意をあてにした地域づくりには限度がある。 ・小・中学校世代の保護者への参加の呼びかけができていない。 ・婦人会やPTAの解散が起きている。将来的に担い手の確保に影響が出てくると

区分	主なご意見
	<p>思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の高齢化により活動をやめる団体があり、ふれまち活動の活力が低下しつつある。若い世代の参加による世代交替が望まれる。 ・委員の選出方法を工夫し、より若い人達が委員に加わってもらえれば、より活発な協議会を運営できると思われる。 ・これまで同じ人が地域福祉センターの役員をしており、みんなを巻き込むことができていなかった。今回、若い人が入ることで改善された。 ・管理・清掃ボランティアには謝礼を支払っているが、行事のお手伝いをしていただくボランティアにどうするか悩んでいる。 ・行事に関わるボランティアがたくさんいるので、負担になっていない。 ・任期が終了した委員にボランティアとして残ってもらうようにしている。 ・ボランティア募集の広報をしている。
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の個人に負担が集中している。 ・役員が高齢化しており、インターネットやデジタルへの対応が遅れている。 ・活動が増えれば助成金等に関する事務作業が増える。有償で事務員を雇用することができればと思う。 ・毎月1回の定例委員会を実施し、委員の合議の上で事業を推進している。 ・月1回の役員会で行事や活動の情報共有と役割分担を調整している。 ・部会長による会議を毎月開催している。欠席者には議事録をお渡ししている。 ・委員への連絡方法を電話網からメール網（SNS）に変更した。 ・SNSで一斉に連絡を回すことで、連絡に関する負担が軽減された。 ・ICTを活用し、スマホによる参加申込みやホームページ・SNSによる情報の共有化・ペーパーレス化を図り、情報発信力の強化、利便性の向上に努めている。 ・クラウドを活用して会議資料をオンラインで共有している。 ・チャットアプリを活用して、日々の問題・計画・出来事などを共有している。 ・イベントへの参加申し込みがオンラインでできるようにしている。 ・パソコン・スマホの利用方法を学習した。
連携	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体と協力したいのに断られることがある。地域で活動する団体が手を結んでこそその地域活性化が可能となると思う。 ・小学校の開放委員会と連携していきたい。 ・関係団体間での役割分担と協働に取り組んだ。 ・小中学校の保護者会との連携を働きかけた。校長・教頭とのコミュニケーションを強化した。
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいのまちづくり協議会や地域福祉センターの認知度が低い。 ・活動への参加者やセンターの利用者が固定化しているのを改善するため、ホームページや広報誌の発行などを通してPRしているが効果が少ない。 ・ホームページを開設した。 ・自治協議会と共同運用するホームページを開設し、地域の情報を一元的に発信している。

②地域福祉センターについて感じていること（問 27）

区分	主なご意見
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備が老朽化している。 ・建物が老朽化しているので建て替えてほしい。 ・地域福祉センターが高齢者には遠すぎるので、学校等をお借りして活動している。新しく地域福祉センターを整備してほしい。 ・2階に調理スペースや会議室があるため、2階を利用して給食や喫茶、パソコン教室などを開催している。高齢の利用者が多いためエレベータを設置してほしい。
設備	<ul style="list-style-type: none"> ・リモート会議ができるように、地域福祉センターの通信機器を充実させた。神戸市のWi-Fiも導入した。 ・高齢の利用者が多いため、地域福祉センターにエレベータを設置してほしい。 ・エアコンを取り換えてほしい。 ・高齢者・子どもが利用しやすいように設備を充実してほしい。 ・高額備品（長テーブル、P C、T V）の導入・更新や、照明器具の省エネ化（LED化）に対する助成をしてほしい。
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・センター運営当番の確保が難しい。自治会の協力が得られていない。 ・当番を地域全体で行うことで、個人の負担軽減を図っている。 ・地域福祉センターの当番業務をふれ協役員からボランティアにシフトした。 ・施設の管理者が日ごとに入れ替わることによる弊害がみられる。 ・現行の管理費は中途半端である。責任をもって管理できるように最低賃金を確保してほしい。有償ボランティアでは十分な管理ができない。 ・管理当番の人件費を上げてほしい。 ・管理者（当番）の費用を上積みしてほしい。
維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉センターの維持管理業務（草刈り、掃除など）を外部委託したい。 ・樹木の手入れ（伐採・剪定）は専門職による対応が必要であり、そのための費用を見込んでほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉交流活動等の増加に対応するため、これまで休館日としていた水曜日を開館することにした。 ・地域福祉センターと地域集会所の利用状況をホームページに掲載し、ネットで利用申し込みができるようにした。 ・地域福祉センターの休館日を日曜日から月曜日に変更した。 ・施設の名称から「福祉」という言葉を外し、「交流センター」や「交流プラザ」、「コミュニティセンター」などに変更してほしい。

③コロナ禍において新たに取組んだこと（問 24）

区分	主なご意見
活動	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても休止をせずに活動をつづけた。 ・人数の瀬減を考慮しながら、センターでの活動をつづけた。 ・イベント内容や規模を縮小し、できる範囲での開催を目指した。PTA等との協力で、子ども対象の祭りを、内容を変更して実施した。 ・高齢者対象カフェにおいて、お菓子の持ち帰りや飲み物の提供を減らした。 ・集まりへの参加人数に制限があるので、オンラインでも参加できるようにした。 ・会食会に変わる取り組みとして、毎月高齢者向けに弁当配給を実施している。 ・ひとり暮らしの高齢者への配食サービスに取り組んでいる。食事の受け取りが社交の場となっている。 ・一人暮らしの高齢者が多く、孤立しやすいので感染に気を付けてお喋りだけのこいの広場を開設した。

区分	主なご意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい喫茶」の喫茶をやめ、人数限定の「ふれあい寄席」と体を動かしてもらおうことを中心にした「ふれあい広場」に変更した。 ・フレイル予防の取り組みとして散歩を推奨し、地域福祉センターを30回訪れた方にプレゼントを渡した。 ・室内行事がしにくいので、屋外でできるグラウンドゴルフ大会を初めて開催した。
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染のリスクを最小限にするため児童館と多くの会議を開いた。 ・高齢者の安否確認や状況変化を共有するために、役員同士でのコミュニケーションを心掛けた。 ・オンライン会議を活用した。 ・コロナ禍だからこそ必要と考え、情報発信に取り組んだ。 ・会議を開催できない時は書面による審議をした。 ・会議が開けなかったので書面連絡で承認をいただいた。 ・検温・消毒一体型スタンドや空気清浄機を導入した。

④その他

区分	主なご意見
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・行政がふれまち活動に何を求めているかわからない。 ・年間に開催する回数に応じて助成金を申請できるようにしてほしい。 ・区役所に提出する書類を簡素化してほしい。 ・書類作成が負担であり、報告書と申請書を改善してほしい。 ・行政へ提出する書類を簡素化してほしい。 ・地域活動を拠点として、地域福祉センターの役割は大きいと思う。市の担当者は、もう少し地域福祉センターへ足を運び、ボランティアで運営している実態などを見て回られることが大切だと思います。 ・市職員OBが地域福祉センターの運営に協力してほしい。

調査票

ふれあいのまちづくり協議会 調査票

1. 貴団体の活動について

問1 貴団体の名称をお聞かせください。

ふれあいのまちづくり協議会

問2 貴団体では、現在地域福祉センターで、どのような活動をしていますか。また、コロナ禍等により現在休止しているが、いずれ再開したい活動と、今後特に力を入れたい活動を、それぞれお聞かせください。

活動		現在実施している (○印はいくつでも)	休止しているが再開したい (○印はいくつでも)	今後特に力を入れたい (○印は5つまで)
記入例	健康講座・福祉講座	1	①	1
	地域ボランティアの発掘	②	2	②
地域住民の福祉向上に関すること	①健康講座・福祉講座	1	1	1
	②地域ボランティアの発掘	2	2	2
	③地域デイサービス・リハビリ	3	3	3
	④家事援助・外出サービス	4	4	4
	⑤ひとりぐらし高齢者料理教室	5	5	5
	⑥高齢者のための健康プログラム	6	6	6
	⑦世代間交流（伝統行事の継承等）	7	7	7
	⑧多世代交流を目的とした講座開催	8	8	8
	⑨障がい者・福祉施設との交流	9	9	9
	⑩ふれあいサロン（喫茶）	10	10	10
	⑪子育てサークルづくり	11	11	11
防災	⑫防災福祉コミュニティ運営	12	12	12
環境美化に関すること	⑬エコタウンまちづくり	13	13	13
	⑭市民花壇の育成・管理	14	14	14
	⑮市民公園の管理・運営	15	15	15
	⑯まちの美緑化ボランティア	16	16	16
こどもの居場所づくり	⑰学習支援	17	17	17
	⑱こども食堂	18	18	18
その他の活動	⑲ふれあい給食	19	19	19
	⑳協議会ニュースの発行	20	20	20
	㉑ホームページ、SNSの開設・運営	21	21	21
	㉒バザー・展覧会の開催	22	22	22
	㉓県民交流広場事業	23	23	23
	㉔その他（ ）	24	24	24

問3 貴団体は、センター以外の施設でも活動をしていますか。(○印は1つ)

1. センター以外の施設でも活動している 2. 活動していない →問4へ(3ページ)



活動している場合、定期的に利用しているセンター以外(市内)の施設をお聞かせ下さい。(最大3施設まで)

(対象となる施設・活動や記入方法の補足)

- ・同じ施設で、2か月に1回以上の頻度で開催している活動について記載してください。
- ・屋外(公園など)での活動は対象外とします。
- ・総会や役員会、イベントの準備・打合せなど、組織運営や準備に関わる活動は対象外とします。
- ・同じ施設で行っている活動が3つ以上ある場合は、参加人数が多いものを優先して記載してください。
- ・施設の所在地(住所)は、番地・建物名まで記入してください。
- ・月当たりの開催日数は、次を参考として記載してください。

毎日 ⇒ 31日 毎週1回 ⇒ 4日 毎月1回 ⇒ 1日 2か月に1回 ⇒ 0.5日

(記入例)

利用施設の名称①	●●会館		
施設の所在地(住所) ※番地・建物名まで記入	神戸市 ●● 区 ●●通●-●-● ●●ビル●F		
施設の種別(○は1つ)	1. 貴団体が長期に賃借している施設 ② 地域の他の団体の所有施設 3. 地域の共同住宅の会議室 4. 会員の個人宅 5. 民間の貸し会議室	6. 学校施設(教室、講堂等) 7. その他の公共施設 () 8. その他 ()	
	集まりの名称	主な利用対象	月回数
①	子育てサロン	1. どなたでも 2. 子ども ③ 親子 4. 高齢者 5. その他	4日/月
②	ふれあい喫茶	① どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	4日/月
③	キッズ体操	1. どなたでも ② 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	1日/月

【回答欄(最大3施設まで)】

利用施設の名称①			
施設の所在地(住所) ※番地・建物名まで記入			
施設の種別(○は1つ)	1. 貴団体が長期に賃借している施設 2. 地域の他の団体の所有施設 3. 地域の共同住宅の会議室 4. 会員の個人宅 5. 民間の貸し会議室	6. 学校施設(教室、講堂等) 7. その他の公共施設 () 8. その他 ()	
	集まりの名称	主な利用対象	月回数
①		1. どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	日/月
②		1. どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	日/月
③		1. どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	日/月

利用施設の名称②				
施設の所在地（住所） ※番地・建物名まで記入				
施設の種別（○は1つ）	1. 貴団体が長期に賃借している施設	6. 学校施設（教室、講堂等）		
	2. 地域の他の団体の所有施設	7. その他の公共施設		
	3. 地域の共同住宅の会議室	()		
	4. 会員の個人宅	8. その他		
	5. 民間の貸し会議室	()		
	集まりの名称	主な利用対象	月回数	
①		1. どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	日/月	
②		1. どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	日/月	
③		1. どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	日/月	

利用施設の名称③				
施設の所在地（住所） ※番地・建物名まで記入				
施設の種別（○は1つ）	1. 貴団体が長期に賃借している施設	6. 学校施設（教室、講堂等）		
	2. 地域の他の団体の所有施設	7. その他の公共施設		
	3. 地域の共同住宅の会議室	()		
	4. 会員の個人宅	8. その他		
	5. 民間の貸し会議室	()		
	集まりの名称	主な利用対象	月回数	
①		1. どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	日/月	
②		1. どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	日/月	
③		1. どなたでも 2. 子ども 3. 親子 4. 高齢者 5. その他	日/月	

問4 貴団体の活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模をお聞かせください。（○印は1つ）

1. 10人以下	4. 31~50人	7. その他
2. 11~20人	5. 51~99人	()
3. 21~30人	6. 100人以上	

問5 貴団体の活動の主な担い手の年齢の特徴をお聞かせください。（○印は1つ）

1. 60歳未満が多い	4. その他 ()
2. 60歳代~70歳代が多い	5. わからない
3. 80歳代以上が多い	

問9 貴団体では、次に挙げるような講習会が開催された際に参加してみたいですか。(○印はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. パソコン、スマートフォン等の利用方法 | 6. 文書作成・表計算等のビジネスソフトの使い方 |
| 2. ホームページの作成方法 | 7. 画像・動画の編集ソフトの使い方 |
| 3. SNSの利用方法 | 8. 他の団体におけるICTの活用事例の紹介 |
| 4. インターネット会議の実施方法 | 9. その他 () |
| 5. セキュリティ対策 | 10. 参加したい講習会はない |

問10 貴団体の活動を進めるうえで課題として感じておられることをお聞かせください。

①人材面での課題 (○印は3つまで)

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1. 役員のなり手がいない | 4. インターネットを活用した広報ができるスタッフが少ない |
| 2. 運営を手伝ってくれるスタッフが足りない | 5. その他 () |
| 3. 事務・会計処理を行える人が少ない | 6. 特に課題はない |

②運営面での課題 (○印は3つまで)

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1. 活動の企画・アイデアを考えるのが難しい | 8. 適切な感染予防対策がわからない |
| 2. 会合や催しを行える場所が少ない | 9. 活動資金が不足している |
| 3. 活動の周知・PRが難しい | 10. 団体名で契約ができない(携帯電話等) |
| 4. 事務・会計処理の負担が重い | 11. 団体名で財産が保有できない(不動産、自動車等) |
| 5. 地域内の団体間の調整が難しい | 12. 協議会のことが住民に十分に知られてない |
| 6. 個人情報の取り扱いが難しい | 13. その他 () |
| 7. 感染予防対策の費用負担が重い | 14. 特に課題はない |

③活動への住民の参加状況での課題 (○印は3つまで)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 活動・催しへの参加者が少ない | 4. 特に参加してほしい年代層の参加が少ない |
| 2. 参加する人の顔ぶれがいつも同じである | 5. その他 () |
| 3. 共同住宅(マンション等)からの参加が少ない | 6. 特に課題はない |

④地域住民への情報伝達における課題 (○印は3つまで)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 配布物が多すぎる | 6. 個人情報が不足して適切に情報を流せない |
| 2. 回覧板の回りが遅い | 7. 個人情報の取り扱いが難しい |
| 3. 会合(説明会)に人が集まらない | 8. その他 () |
| 4. 広報紙を作成したいができていない | 9. 特に課題はない |
| 5. ホームページやメールを使いたいができていない | |

問11 貴団体は、他の団体と行事や情報交換などの連携をしていますか。既に連携している団体と、今後新たに連携したい団体を、それぞれお聞かせください。(○印はいくつでも)

連携先となる団体	既に連携している団体	新たに連携したい団体
(記入例) 自治会	1	①
①自治会	1	1
②婦人会	2	2
③他のふれあいのまちづくり協議会	3	3
④まちづくり協議会 (特定エリアのまちづくり組織)	4	4
⑤防災福祉コミュニティ	5	5
⑥青少年育成協議会	6	6
⑦老人クラブ	7	7
⑧子ども会	8	8
⑨ P T A	9	9
⑩民生委員・児童委員	10	10
⑪社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、地域の福祉事業所	11	11
⑫小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校	12	12
⑬公民館、児童館等の公共施設	13	13
⑭ N P O、ボランティア団体	14	14
⑮地域の企業・事業者・商店など	15	15
⑯既存の団体に参加していない個人	16	16
⑰その他 ()	17	17
⑱現在特に連携していない/今後新たに連携する予定はない	18	18

問12 貴団体が、これまで他の団体と連携して取り組んだことの概要をお聞かせください。

	連携先	連携内容、発揮された強み (貴団体、連携先団体)
事例 1		
事例 2		
事例 3		

問13 貴団体が、大学等の教育機関や企業、NPO 法人等、他の団体と今後連携して取り組みたいことがあれば、アイデアをお聞かせください。

	連携したい相手	連携して実現したいこと
連携 1		
連携 2		
連携 3		

問18 貴団体の活動している地域には、特にどのような課題があると思いますか。(○印は5つまで)

- | | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 1. 住民のつながりの希薄化や孤立 | 10. 管理の行き届いていない空家・空地の増加 |
| 2. 一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加 | 11. 生活ルールの共有（ゴミ出しルールなど） |
| 3. 若者世代や子育て世代の減少・流出 | 12. 公共交通の利便性の低下 |
| 4. 子どもの遊び場の不足 | 13. 買い物利便性の低下 |
| 5. 子育て環境の充実 | 14. 地域の歴史や伝統、文化の継承 |
| 6. 交通事故の発生、自転車のマナーの改善 | 15. 地域産業の活性化 |
| 7. 防災への備え（高齢者等の避難誘導など） | （農林漁業、ものづくり、観光など） |
| 8. 防犯への備え（ひったくり、登下校の安全確保、夜道の明るさなど） | 16. 在住外国人との交流・共生 |
| 9. 地域の美化（ペットのマナーの向上、ポイ捨て、落書きなど） | 17. 環境保全活動（里山保全など） |
| | 18. その他 |
| | （) |

問19 問18の課題を解決していくために、今後どのようなことに、今よりもっと力を入れて取り組むことが必要と思われますか。(○印は5つまで)

1. 住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動（居場所づくり、イベント、多文化共生など）
2. 子どもたちが健やかに育つ地域にする活動（子どもの遊び場、子ども食堂、青少年育成など）
3. 妊婦、乳幼児とその保護者を支援する活動（子育てサロン、親子サークルなど）
4. 高齢者や障がい者の安心を支援する活動（見守り活動、食事会など）
5. 助け合い活動（電球交換、買い物支援、移動支援等）
6. 健康づくりの活動（ウォーキングや体操など）
7. 気軽に文化に親しめる活動（音楽、芸術など）
8. 自然を大切にしたり、花や緑を増やす活動（季節感のある広葉樹を増やす、河川清掃など）
9. まちの美化活動（ペットのマナーの向上、ポイ捨て禁止など）
10. 歴史や伝統、文化を継承する活動
11. 地域の産業（農林漁業、ものづくり、商店街、観光など）を活性化する活動
12. 防犯活動（ひったくり、子どもの安全、防犯灯、詐欺被害防止など）
13. 災害に備えた自主防災活動（避難訓練、独居の方の緊急連絡先の把握など）
14. 交通安全活動（登下校の見守り、自転車のマナー向上、路上駐車対策など）
15. まちの基盤となる道路や公園などの整備に関する活動
16. 空き地・空き家対策に関する活動
17. 生活環境の改善・保全などを目的としたルールづくりに関する活動
18. その他 ()
19. 特にない
20. わからない

問20 貴団体が活動している地域では、地域づくりに取り組む団体間が連携・協力し、「地域の力を結集」できていると思いますか。(○印は1つ)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 結集できている | 3. あまり結集できていない |
| 2. 結集できるようになりつつある | 4. わからない |

問21 あなたは、貴団体の活動の現状について、どのようにお考えですか。(○印は1つ)

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 活発に活動しており満足している | 3. 満足していない |
| 2. 課題もあるがまあまあ満足している | 4. わからない |

問22 あなたは、貴団体が担う役割は今後どうなると思われますか。(○印は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| 1. ますます大きくなる | 3. 現在より小さくなる | 5. わからない |
| 2. あまり変わらない | 4. 役割を終える | |

問23 貴団体の活動を活発にしていくために、必要なことをお聞かせください。(○印は3つまで)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 地域課題についての情報・データを共有する | 7. 他の団体と連携・協力した活動を増やす |
| 2. 地域の課題を自由に話せる場・機会を増やす | 8. 他地域での活動事例を学ぶ |
| 3. 地域活動についての広報活動を充実する | 9. 地域活動の活動財源を増やす |
| 4. 地域活動のリーダーを育てる | 10. その他 () |
| 5. 活動への参加をよびかける(誘う) | 11. 特にない |
| 6. 活動の分担を工夫する(上手く分かち合う) | 12. わからない |

問24 貴団体の活動の活発化や運営負担の軽減のために工夫されていること、コロナ禍において新たに取組まれたことをお聞かせください。

--

問25 貴団体が市に相談したいことや、支援を希望することをお聞かせください。(○印はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1. 事業計画の作成 | 8. ふれまちに加入していない人も活動に参加できる仕組み |
| 2. 活動事例の紹介 | 9. インターネットを活用した補助金申請受付 |
| 3. 活動先・連携先のマッチング | 10. デジタル技術の活用 |
| 4. イベントなどの企画・運営・集客 | 11. 会計・税務 |
| 5. 広報・情報発信(ホームページ、SNSなど) | 12. 人事・労務 |
| 6. 資金確保(寄附・助成金等) | 13. その他 () |
| 7. 組織運営・人材育成 | 14. 特に相談したいことはない |

問26 ふれあいまちづくり協議会の活動の活性化に向けて、行政に期待する取り組みをお聞かせください。

(○印はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1. 地域福祉センターの計画的な修繕 | 7. デジタル技術の活用支援 |
| 2. 地域福祉センターの名称変更または、個別での愛称の導入 | 8. 感染防止対策の取り組みへの助言 |
| 3. 開館日の見直し(日曜開館を可とする) | 9. 交付金メニューの統合(包括交付金化) |
| 4. 協議会での取組事例の紹介 | 10. 行政へ提出する書類の簡素化 |
| 5. 協議会の交流会・勉強会の開催 | 11. その他() |
| 6. 協議会と他の団体とのマッチング・連携の仲介 | 12. 特にない |

問27 あなたが、ふれまち活動や地域福祉センターについて感じておられる課題や、ご意見をお聞かせください。

3. あなたご自身の活動状況について

問28 貴団体における代表の選出方法はどのような方法ですか。(○印は1つ)

1. 自薦・他薦 2. 持ち回り制 3. 選挙(投票) 4. くじ引き 5. その他()

問29 貴団体では、代表の任期や定年の定めがありますか。(○印はいくつでも)

1. 任期の定めがある(例:連続2期まで) 2. 定年の定めがある 3. 特に定めはない

問30 あなたが、委員長になってからの年数をお聞かせください。(令和4年10月1日時点)

約()年()か月

問31 あなたが、地域活動の担い手として参加したきっかけをお聞かせください。(○印はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1. 自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから | 4. 知り合いに誘われたから |
| 2. 家族が地域活動に参加していたから | 5. 役員・班長の順番が回ってきたため |
| 3. 以前住んでいた地域で地域活動に関わっていたから | 6. その他() |

問32 あなたが、地域活動に参加してよかったと思うことをお聞かせください。(○印は3つまで)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 近隣の知り合いが増える | 5. 行政に対して意見・提案を伝えやすい |
| 2. 地域の様々な情報が入手できる | 6. 地域の人に喜んでもらえることがあった |
| 3. 困ったことや問題が起こった時に相談しやすい | 7. その他() |
| 4. 地域の活動について意見・提案ができる | 8. 特にない |

問33 あなたは、ふれあいのまちづくり協議会をはじめ地域活動のために、月間何日ぐらい活動していますか。(数字を記入)

月間 () 日ぐらい ※最大値を 31 日としてください

(丸々1日ではなくても、会合への出席など1日の間に少しでも活動があれば1日として数えてください。)

問34 あなたは、委員長として、特にどのようなことに負担を感じていますか。(○印は3つまで)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 活動に要する時間の負担 | 6. 個人情報保護などの社会ルールへの対応 |
| 2. 個人の金銭面の負担 | 7. 転入者への協議会の周知 |
| 3. 責任が重い | 8. 各種委員会へのふれまち委員の推薦 |
| 4. 苦情・要望への対応の負担 | 9. 行政からの研修や行事への参加要請対応 |
| 5. 後継者や役員が確保しにくい | 10. その他 () |

4. あなたご自身のことについて

問35 あなたご自身のことについてお聞かせください。(それぞれ○印は1つ)

①年代	1. 20代以下	3. 40代	5. 60代	7. 80代以上
	2. 30代	4. 50代	6. 70代	
②現在の地域(小学校区)での居住年数	1. 2年未満	3. 5年～10年未満	5. 20年～30年未満	
	2. 2年～5年未満	4. 10年～20年未満	6. 30年以上	
③就業状況	1. 常勤雇用(役員を含む)	4. 家事専業		
	2. 非常勤雇用(パートなど)	5. 無職		
	3. 自営業・自由業	6. その他 ()		
④インターネット検索	1. よく利用する	2. あまり利用しない	3. 利用しない	
⑤SNSの利用※1	1. よく利用する	2. あまり利用しない	3. 利用しない	
⑥インターネット会議※2	1. よく利用する	2. あまり利用しない	3. 利用しない	

※1 SNS LINE、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど

※2 インターネット会議 Zoom、Microsoft Teams、Google Meet など

ご協力ありがとうございました。

11月11日(金)までにお近くのポストに投函してください(切手不要)

■ **令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査**
ふれあいのまちづくり協議会 調査結果報告書

(連絡先)

神戸市地域協働局地域活性課 (地域コミュニティ担当)

電話 : 078-322-5170 (内線 2262) FAX : 078-322-6133

電子メール community@office.city.kobe.lg.jp

(調査委託先) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社